



FUJI SASH SUSTAINABILITY REPORT 2025-2026

不二サッシ サステナビリティレポート

窓の、向こうへ

その先の景色に、私達は未来を見えています。



経営理念

基本姿勢

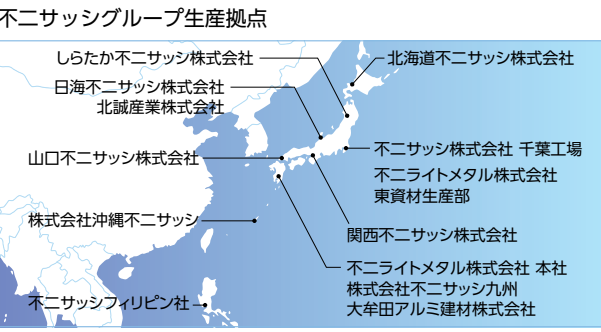
行動規範

不二サッシは窓から夢をひろげていきます

私たちはお客様との絆を大切にします
私たちは心をこめた商品を世に出します
私たちは活力あふれる気風づくりに努めます

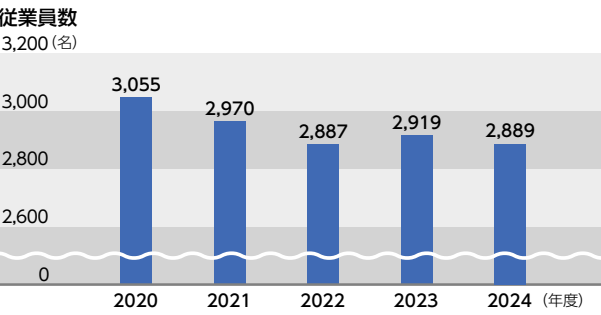
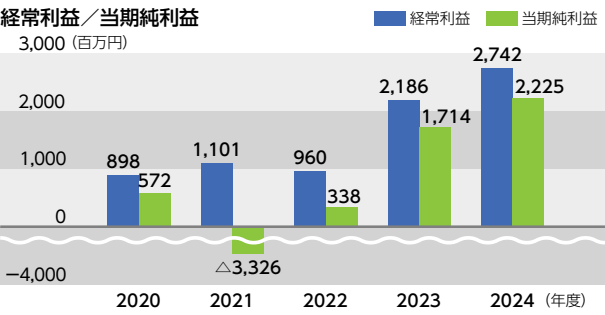
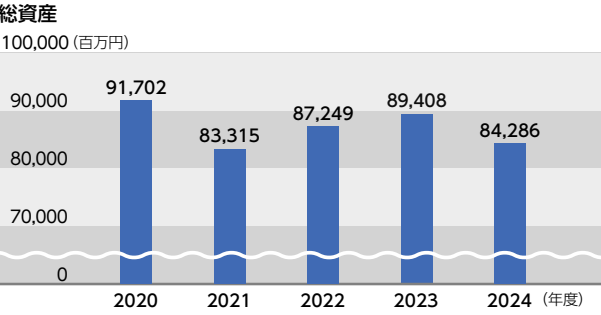
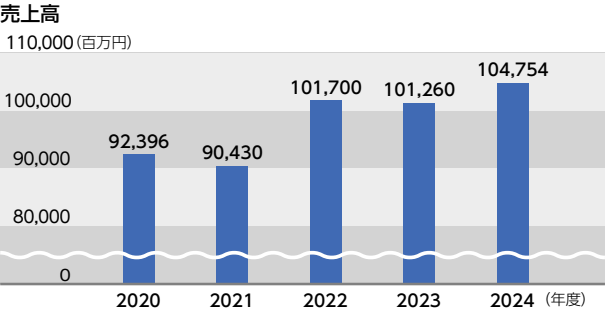
会社概要

商号	不二サッシ株式会社 (FUJI SASH CO.,LTD.)
本社所在地	神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号
創業	1930(昭和5)年7月7日
設立	1969(昭和44)年5月1日
資本金	1,709,609,300円
従業員数	912名(連結 2,889名)(2025年3月31日現在)



FUJI SASH
SUSTAINABILITY
REPORT 2025-2026

業績・財務ハイライト(連結)



目次

経営理念／会社概要／業績・財務ハイライト(連結) 2
目次／編集方針 3
トップメッセージ 4

価値創造ストーリー 8
価値創造プロセス 8
特集:新中期経営計画(2025-2027年度) 10
特集:社員座談会 12
価値創造のあゆみ 16
不二サッシグループの製品・サービス 18
サステナビリティマネジメント 22
サステナビリティマネジメント(マテリアリティー一覧) 24
サステナビリティ経営の全体像 26

価値創造の基盤
Governance ガバナンス 28
コーポレートガバナンス 28
コンプライアンス 29

Social 社会 30
お客様とともに 30
製品品質・安全への取り組み 30
社会とともに 31
事業と社会のつながり 31
従業員とともに 32
人権の尊重 32
人的資本経営の推進 32
労働安全衛生 35

Communication コミュニケーション 36
ステークホルダーとのコミュニケーション 36

Environment 環境 38
脱炭素社会の実現への取り組み 38
TCFD 39
環境負荷低減に向けた取り組み状況 40
資源循環および生物多様性に関する取り組み状況 41
TNFD 42
2024年度の事業活動におけるデータ集 43

第三者意見 43

編集方針

本レポートは、サステナブルな社会実現への貢献を通じて成長していく不二サッシグループの事業や考え方を、ステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的として発行しています。

2025年度版のポイント
2025年度よりスタートした新たな中期経営計画を解説するとともに、その策定に参画した不二サッシグループ全体のプロジェクトのメンバーによる振り返り「社員座談会」を掲載しています。
製品面では2030・2050年度の脱炭素目標達成に向けた重要な、新しい低炭素建材を紹介しています。
また、不二サッシグループのサステナビリティ経営の全体像として、経営資本、経営計画、サステナビリティをどのように結びつけて企業価値を高めていくのか整理しています。

Webマークの項目は当社ホームページ上で
詳細情報をご覧ください。

- 参考にしたガイドラインおよびガイダンス
 - ・TCFD提言
 - ・GRIスタンダード
 - ・国際統合報告フレームワーク
 - ・ISO26000:社会的責任に関する手引
 - ・環境省:環境報告ガイドライン2018年版
- 対象範囲
不二サッシ(株)および関連会社。
特定の範囲を示す場合は本文にその旨を表記しています。
- 対象期間
2024年4月1日～2025年3月31日
※一部対象期間以外の情報も含みます。

企業・従業員、 お客様、投資家へ 「三方良し」を実現し、 成長の源泉に

代表取締役社長

江崎 裕之



— 逆風の事業環境下で「稼ぐ力」を蓄積

当社グループは本年度より、新たな中期経営計画（2025-2027年度）をスタートさせました。

「稼ぐ力の向上」を基本方針として掲げた前中期経営計画の3ヶ年（2022-2024年度）は、当社グループにとって、経営基盤強化の土台づくりに邁進した期間だと言えます。この間、原材料である地金や、その他の資材の価格高騰などがあり、また円安の進行も大型工事の利益を圧迫する一因となりました。計画策定時点では想定しきれなかった事業環境の変化が、利益の押し下げ圧力となったことは否定できません。

そのような逆風の事業環境下で、当社グループでは様々な事業改革に取り組んできました。マザー工場である不二サッシの千葉工場においては、工程の省人化や部品供給の迅速化、熟練担当者の業務見直し（高度作業への専従化）、IT管理の導入などを進め、製造の黒字化に向けた改革に取り組んでいます。

グループを挙げて改革に取り組むことで、「稼ぐ力」は着実に培われていると認識しています。前中計で掲げた目標は結果的に一部未達となりましたが、2024年度決算ではすべての事業セグメントにおいて増収増益を達成することができました。

— さらに飛躍に向けて投資を加速

「収益・経営基盤固め」の時期と位置付けた前中計期間を経て、新たな中期経営計画では、次のステップとして「持続的成長への投資加速」を掲げています。

当社グループを取り巻く事業環境は、依然として厳しさを増し続けています。しかし今後の成長を実現するためには、今ここで歩みを止めることはできません。人的資本不足を補うための省人化投資や業務効率化のためのDX投資、また安定収益確保に向けた事業サブスクリプション化（ユニットハウス事業）のための投資などは、安定した手持ち物量がある現在だからこそ実行可能だと考えています。2030年に迎える創業100周年、さらにその先を見据えると、無駄を排し、強靱で持続可能な、盤石な経営体質としなければなりません。そのために、成長戦略に基づいた投資を引き続き積極的に進めてまいります。

— 「3つの30（サンマル）」を設定

新たな中期経営計画では、期間中に最低限達成すべきゴールとして「3つの30」を掲げています。「企業・従業員」、「お客様」、「投資家」の方々に対する「三方良し」を実現するために、下図のような目標を設定しました。

なお下図のうち「企業・従業員」は、当社グループのみならず、サプライヤー様など当社グループに関わるすべての企業と従業員の方々を包含したものです。サプライヤー様には「3つの30」を実現することで好循環を生み、効果を波及させられると確信しています。

これらの目標を計画の最終年度である2027年度末までに達成することで、その次の段階として、「自己資本比率30%超」達成が視野に入ります。財務の健全性を高めることで、配当性向30%以上やDOE（株式資本配当率）3.0%以

上への道が開け、選択肢が広がることでさらなる企業価値の向上を実現させ、満を持して“新たな100年”のスタートを切ることができます。

— “現場の社員”が計画策定に参画

当社グループの「2030年にあるべき姿」を明確にするため、グループ各社の30～40代社員で構成される「F30プロジェクト」を2023年に立ち上げ、2024年末までの期間中、様々な議論を重ねてきました（▶P.12-15）。一連の活動の言わば集大成として、今回の中期経営計画の策定にも、プロジェクトのメンバーが参画しています。

私はかねてより、当社グループが成長する上での障壁として、個人（部分）最適主義の弊害を感じていました。個々が“ガラパゴス化”して個人（部分）最適に陥れば、全体を俯瞰することが困難になり、成長の阻害要因となりかねません。組織全体が個人（部分）最適から脱却し、全体最適にマインドを切り替えなければなりません。

「F30プロジェクト」発足は、そのための取り組みの一つでもありました。グループ各社から部署、職種の垣根を越えたメンバーが集まり、全員で全体の業務の棚卸しを行い、不自然な部分は話し合いで改善策を立案する——その延長線上にあったのが、中期経営計画策定への参画です。一連のプロセスを経て、全体最適の意識を高めてもらえたことを確信しています。また「トップダウン」ではなく、自分たちからの「ボトムアップ」で作り上げた計画に対して、自負と責任感が生まれ、帰任したそれぞれの職場で中心的な役割を担ってくれるでしょう。

このプロジェクトの成果を土台として、本年4月に、社長直轄の組織である「F30推進部」を新設しました。部のトップには執行役員を配置し、専従のメンバーを各部門から集めて、計画の進捗度合いを管理しています。

3つの30（サンマル）を目標に設定



営業利益	33億円以上	（→企業）
ベースアップ	+3.0%以上/年	（→従業員）
配当金	30円/株	（→投資家）

― 脱炭素に向けた取り組みを加速

サステナブルな社会の実現に貢献し、「選ばれる企業グループ」であり続けるために、引き続きサステナビリティ経営を通じて環境・社会課題の解決に取り組んでいきます。持続的に成長する未来像に向けて当社グループ社員が進むべき道筋を描いた「サステナビリティビジョン2050」を2024年3月に策定・発表し、同6月には温室効果ガス(GHG)排出量の削減についてSBT(Science Based Targets)の短期目標およびネットゼロ目標の認定を取得しました。同じく2024年には、経済産業省が主導するGXリーグにも参画しています。環境面での計画策定は一区切りという状況になり、今後は立案した計画を実行し、目標を実現するフェーズへと進みます。

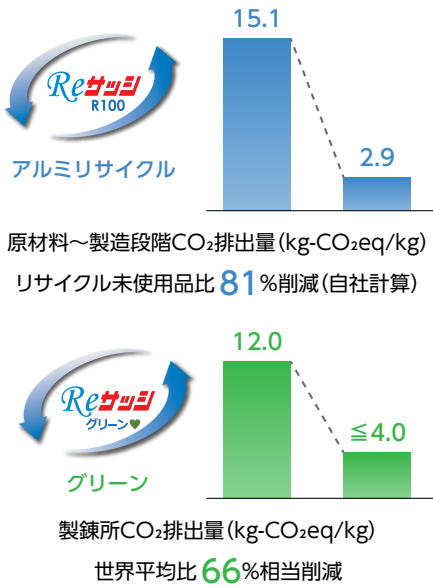
「サステナビリティビジョン2050」で掲げたGHG排出量の削減目標に対し、2024年度末時点ではScope1+2はやや緩やかなペースで推移しているものの、Scope3の削減量は目標よりも先行しており、全体としては脱炭素が順調に進んでいると言えます(▶P.38)。しかし、今後も同様の条件が続くとは言いきれません。Scope1・Scope2の削減については、「省エネ」や「創エネ」のための設備投資を進め、Scope3の「原材料・製品」では製品のリサイクル率向上など、取り組みをさらに加速させていかなければならないと認識しています。

SBTの認定取得は、社会やお取引様からの要請に応える形で実現しました。結果的に、ネットゼロ目標の認定取得では建材業界でも2社目の早さとなりましたが、将来にわたって事業活動を継続する上で避けて通れなかった道であると言えます。認定を取得するまでの過程で、脱炭素へ向かうという共通認識を当社グループ内に醸成でき、推進力を増すことができたのは、大きな成果でした。この勢いを減じることなく、引き続き排出量削減のための取り組みを推進していきます。

― 建築業界の脱炭素ニーズに応える
サステナブルな新製品を開発・発売

アルミニウムは「電気の缶詰」と言われるほど、エネルギー負荷の大きな素材です。この素材を扱う当社グループが原材料・製品における脱炭素化を進めるには、リサイクルで賄うのが最善だと考えていました。1990年代以来のリサイクル事業「リサッシ」を進化させ、REBORN(再生・生まれ変わり)へ昇華させたのが、本年5月に販売戦略を打ち出した新製品「Reサッシ R100」と「Reサッシ グリーン」です(▶P.20)。前者(R100)は、原材料にアルミ市回収材とリターン材のみを使用。また後者(グリーン)は、リ

オイント社製のグリーンビレット「RenewAl™」のみを使用している点が最大の特徴です。建築業界における脱炭素ニーズを満たせるのみならず、特に「Reサッシ R100」は、従来品と同水準の価格で提供できることが大きな優位点となっています。建築業界のニーズにお応えするところからスタートし、将来的には全素材への展開を目指しています。



― サステナビリティを強化した新社屋を建設

さらなる経営基盤強化の一環として、川崎市の溝の口工場跡地に当社グループの新社屋を建設し、各地に分散していた営業拠点やグループ各社を移転・集約します。本年7月に着工し、竣工は2026年7月の予定です。

新社屋は屋上に太陽光発電パネルを設置し、また壁面のカーテンウォールには前述の「Reサッシ R100」を採用するなど、当社グループが進める脱炭素の取り組みを具現化したショールーム併設型オフィスビルとなります。複数拠点を集約することで、エネルギー消費の圧縮効果も見込めます。また川崎市の防災協力事業所に登録し、災害発生時には地域の避難所としてご利用いただくほか、太陽光発電の電力を地域に分配するなど、地域社会の持続性向上にも大きく貢献します。

― 次世代のサッシ施工技能者を育成

労働人口の減少でサッシ施工技能者の不足が顕在化する中、当社グループでは「不二サッシ施工技能者育成プロジェクト」を発足し、その専担会社として不二サッシS・C株式会社を設立しました(▶P.33)。若い技能者候補生を



社会環境や価値観の変化に対応しつつ
歴史の中で培ってきた信念を大切に
次の100年に向けて歩み続けます。

正社員として雇用し、職能技術や施工管理を集中的・効率的に教育。従来は10年かかると言われていた技能者の育成期間を4年程度に短縮し、期間終了後は不二サッシへの転籍や独立開業など、自身の希望に応じた進路を選んでもらう制度です。

人材難の解消に加え、技能の伝承という面でも社会課題に応えることで、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

― 社員のご家族を当社グループのファンに

新たな取り組みとして、(株)文響社とともに、小学生向けの啓発冊子を制作・公開しました。子どもたちから絶大な支持を集め、各種メディアでも紹介された同社のヒットシリーズ『うんこドリル』のフォーマットを土台に、『うんこドリル くらしと窓』と題して、窓の役割や大切さをク



大ヒット『うんこドリル』のフォーマットを土台に、窓の役割や大切さを伝える啓発冊子を制作。地域貢献と従業員エンゲージメント強化のため、地域の小学校へ寄贈しました。

イズ形式で分かりやすく紹介しています(▶P.37)。
この冊子を、当社グループの生産拠点が立地する市町村の小学校に寄贈させていただきました。地域社会に対する恩返しの意味合いもありますが、他方で、当社グループ従業員のお子さんに関心・愛着を持ってもらいたいという願いも込めています。広義のエンゲージメント強化施策だと位置付けられるかもしれません。

― 社会に貢献し、
社会から選ばれる企業グループであり続ける

来る2030年、当社は創業100周年を迎えます。100年間の歩みは、社会からの要請に応えて新たな価値を創出することの繰り返しでした。当社グループに対して求められる役割は、今後も少しずつ変化していくでしょう。

その一方で、時代の波に流されることなく、大切に守り続けるべきポリシーもあります。祖業である「窓」は、人々を外敵から守り、成長に必要な光を届けてくれる、私たち人類にとってかけがえのない製品です。経営理念の「窓から夢をひろげていきます」、行動規範の「お客様との絆」、「心をこめた商品」、「活力あふれる気風」を太い軸として守りながら、ポートフォリオをきめ細かくアップデートすることで時代や社会の変化に対応していきます。次の100年においても「選ばれる企業グループ」であり続けるべく、30社が“不二サッシ”ブランドのもとで心をついに、価値創造に邁進していく所存です。

価値創造プロセス

創業以来90年を超える歴史の中で培ってきた「技術力」と「提案力」、そしてグループ間連携を活かしたサッシの一貫生産による確かな「品質」を基盤として、社会の夢をひろげる価値創造プロセスの推進に取り組んでいます。

持続可能な社会の実現への貢献を通じて企業価値を高め続け、持続可能な成長を目指します。



特集:新中期経営計画(2025-2027年度)

～2030年度 / 創業100年に向けた再構築～

不二サッシグループは経営理念のもと、「選ばれる企業グループ」としてすべてのステークホルダーの信頼にお応えすべく、収益性と資本効率の向上、およびESG・サステナビリティを意識した経営を基本方針としています。2030年の創業100周年を見据え、2025年度から2027年度を対象とする新たな中期経営計画を策定し、持続的な企業価値の向上に向けた変革を進めています。

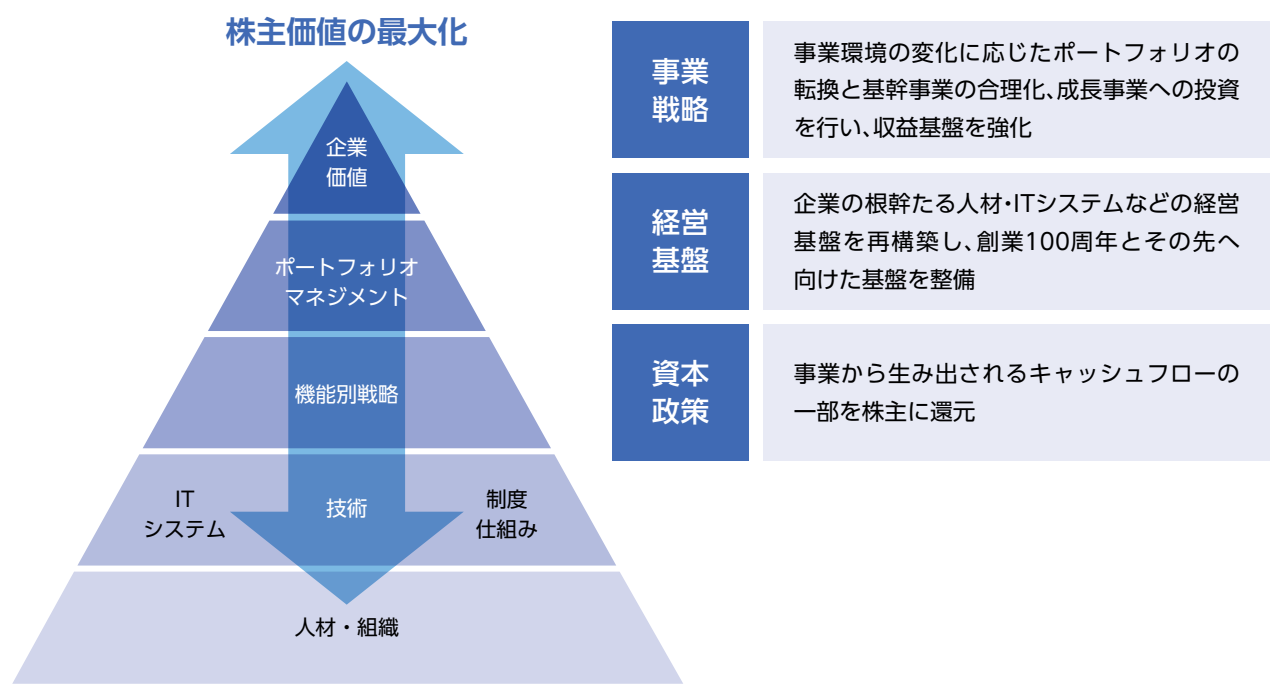
基本方針と目標

収益面・経営面の双方で
確固たる基盤を構築し、
誰もが安定・安心できる
企業グループとなる

FY24実績と新中計(FY25～FY27)の計画		
経営指標	FY24 実績	FY27 目標
売上高	1,047億円	1,100億円
営業利益	24億円	33億円
営業利益率	2.4%	3.0%
純資産	235億円	250億円程度
ROE	10.1%	8.0%以上

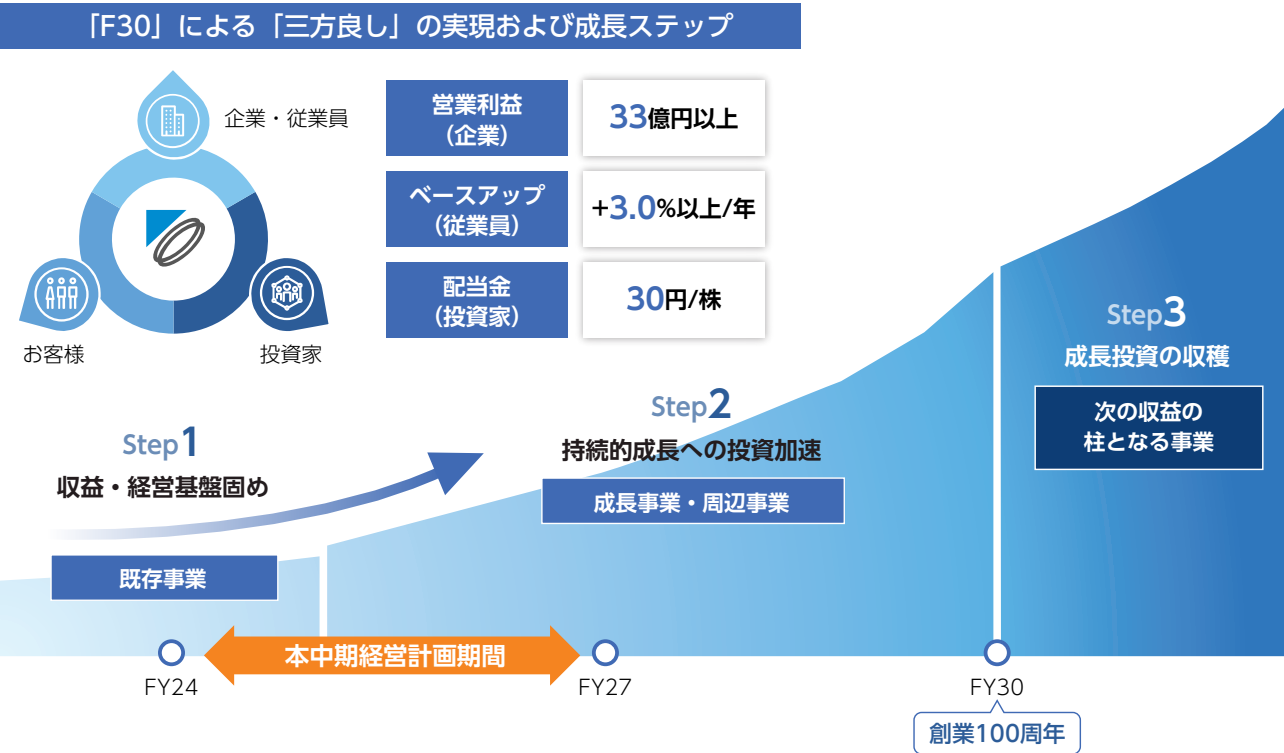
基本戦略

企業の根幹である人材・組織やITシステムを再構築していくとともに、ポートフォリオの転換や機能別戦略を実行することで企業価値、ひいては株主価値の最大化を図ります。



「F30プロジェクト」

激動の事業環境下において、次の100年を生き抜くために創業100周年に向け、次世代を中心としたF30プロジェクトを始動しました。本中期経営計画はその延長線上にあり、期間内に3つの30「サンマル」達成を目指しています。



事業による持続可能性への貢献 ▶ P.20-21

脱炭素社会の実現に向け、バリューチェーン全体のGHG排出削減に取り組み、社会的要請に応えるリサイクル率100%の再生低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」を提供していきます。

また、人権尊重を基本方針とし、社内外における人権リスク対応のみならず、社員の成長やエンゲージメント向上をもたらす人的資本経営の一層の定着を図ります。

不二サッシグループが取り組むSDGs ▶ P.24-25

3 健康経営

働きやすい職場環境

労働安全衛生・熱中症対策の強化

4 人材育成の強化・拡充

多能工化(マルチタレント化)推進

施工技術の伝承

5 多様性の活用

女性活躍推進

仕事と子育ての両立の支援

7 再生可能エネルギー創出・調達

製造工程の燃料転換

製造設備省エネ化

8 組織全体のエンゲージメント向上

人材育成の強化・拡充

コンプライアンス強化、人権リスク対応

9 脱炭素関連・GX商品の開発

DXおよび製造自動化

海外事業の強化

11 都市防災・BCP強化への貢献

気候変動適応商品の開発

物流におけるCO₂削減・省資源化

12 サーキュラーエコノミー推進

製品含有の化学物質削減

サステナビリティ情報開示の強化

13 温室効果ガス排出量削減目標(SBT)の達成

低炭素アルミ製品の展開

サプライヤーとの脱炭素に向けた協働

14 水使用量の抑制

排水水質管理の徹底

生分解性薬剤を通じたプラスチック汚染対策

15 環境エンジニアリング事業を通じた環境保全

アルミ原材料調達状況の調査・管理

持続可能な木材利用への貢献

17 ステークホルダーとの協働

産官学共同研究などの連携強化

「F30プロジェクト」メンバーが語る、不二サッシグループの未来

「2030年の不二サッシグループは…」 あるべき姿を、自分たちで描く



2030年に向けて、当社グループの「あるべき姿」を明確にし、実現していくためにグループ内各部門・各社の中堅社員で構成される「F30（サンマル）プロジェクト」を立ち上げ、課題の特定や将来に向けた施策の立案を行いました（活動期間：2023年11月～2024年12月）。2025年度よりスタートした新中期経営計画（2025-2027年度）の策定にも、当プロジェクトのメンバーが参画し、プロジェクト内で立案された施策が反映されています。プロジェクトメンバーとして参加した不二サッシグループの中堅社員に、活動で得られた新たな気付きや成果、2030年に向けた思いなどを語ってもらいました。

— このプロジェクトに参加した きっかけを教えてください

岡田 「F30プロジェクト」には、当社グループ内の各社・各部門から計50名近い多彩なメンバーが集まりました。皆さんは、どのような経緯で参加されたのですか？

斉藤 本部長からの指名です。数年前にも社内横断で行われた「若手プロジェクト」に参加した経験があり、今回も同じような感覚で気軽にお受けしたのですが、プロジェクトのスケールが違いすぎて（笑）。

石本 自分が知らないうちにメンバーとして登録されていました（笑）。不二サッシの方々ならばともかく、不二サッシ九州所属の自分がなぜ？と不思議に思いました。

高田 私も他薦です。プロジェクトの目的が「次の中期経営計画を作成するための活動」だと聞いて、はたして自分で良いのだろうか戸惑ったのを覚えています。しかし、不二サッシグループが今まさに変わろうとしている、決意のようなものが伝わってきました。そこから「自分たちの意見を会社の上層部に伝えられる良いチャンスかもしれない」と、次第に前向きな気持ちに変化していきました。

嶋生 当社（不二ライトメタル）も九州ですが、私自身はふだんから不二サッシの企画部門と連携して業務にあたる機会があったので、それで声をかけていただいたのだと思います。とは言え、日常の業務はほぼ自社内で行っているため、グループ全体の今後を考えるというテーマを与えられて少し驚きました。自分がどれだけ貢献できるのか不安もありましたが、一方でグループ全体を知る良い機会に恵まれたことがうれしくもありました。

各分科会の紹介 「F30プロジェクト」で取り組んだテーマ

「F30プロジェクト」事務局	営業分科会	部門横断とさらなる情報共有の検討／高収益体質の構築とエンゲージメント向上の両立／成功例のナレッジ化 など
	積算・調達分科会	利益向上のための施策立案／「原価検討会」実施 など
	設計・生産設計分科会	外注業務の再検討と内製への転換 など
	施工・物流分科会	施工技能者（職人）不足への対応／既存アセットの活用・強化 など
	製造分科会	製造拠点の見直しによる横持ち削減 など
	技術分科会	試験研究センターの有効活用による利益創出／新規開発テーマの見直し（リソースの再分配） など
	経理分科会	人員減への対応／システム導入による分析機能高度化／業績や経営指標の表現統一 など
	人事分科会	採用活動の強化／研修制度の見直し など

岡田 私も、上司に「やって」と声をかけられたときは不安でした。自分自身の業務と並行しながら、どこまでできるのだろうと。しかし、やるからにはしっかり作り込み、悔いを残さないようにしなければと肚をくくりました。

— どのような活動をしていたのですか？

岡田 8つの分科会に分かれて、私たちの分科会（営業）では、2030年を見据えたときに何が問題になるのか、課題を洗い出していくところから始めました。最初から大きな方針を立てるのではなく、今まで自分が不都合と感じていたことを抽出すれば、そこから必然的に改善につながるだろうと。そこに気付いてから、少し気が楽になりました。一旦スタートを切ってからは、各メンバーからどんどん意見が出てきた印象です。

嶋生 経理分科会でも、現状の課題把握から始めました。各社・拠点ごとに業績管理の構造や手法が微妙に異なっていて、相違点を把握するのに苦心しましたね。でもそのことが結果的に、グループの全体像を理解する上で役立ったと思います。



石本 それぞれの部門や会社で業務の性質が異なり、ほかはどうしているのかわからないこともネックでした。それを今後の課題として捉えられたことは、一つの成果だったのかもしれない。

高田 設計・生産設計分科会では、「どの業務に、どれだけの時間を割いているか」の分析から着手しました。分かったのは、思った以上に会議や打ち合わせが大きな比重を占めていたこと。そこで会議に時間を費やしている人の業務をほかのメンバーに振り分けることや、業務自体を見直していこうというところからスタートしました。

斉藤 プロジェクトメンバーは中堅社員が多かったので、特に会議が多いのですね。高田さんたちの報告を聞いて、そんなに時間を割かれているのかと驚きました。

嶋生 各分科会で抽出した課題を、次に「どの部門に関わることなのか」で仕分けました。たくさん集まりましたね。全体で、200ぐらい？

岡田 数えたら、合計で600以上あったそうですよ。

嶋生 そんなにたくさんあったんですか！

斉藤 我々の技術部門は、日常の業務でも他部門からの要望を受ける機会が多いです。このプロジェクトでも、様々な要望をいただき——少々厳しい内容もありました（笑）。でも他部門の実働部隊の方々から意見をいただく機会はなかなかないので、有難かったです。

嶋生 一つの課題に対して、解決策も一つとは限りませ

ん。多くの案が出てくる中で、こちらの部門を優先すると別の部門で不具合が出るといったことも、少なくありませんでした。そのようなときでも、各部門のメンバーがそれぞれの立場から想定される影響を示し、でも最後は「全体最適」の視点に立って意見交換することができたので、本当に有意義だったと感じています。

— 自分たちが策定に関わった中期経営計画をどのように捉えていますか？

石本 正直なところ、このプロジェクトに参加するまでは、会社が策定して発表する経営計画というものにポジティブな印象を持っていなかったのです。現場の実態に合っていないのではないかとか、具体性に乏しいのではないかといった見方をしていました。

岡田 私も、どこことなく他人事のように見ていたかもしれません。

高田 発表された経営計画には毎回目を通し、達成すべき目標として認識してきました。しかし、ふだんから強く意識していたかと問われると、どうしても目の前の業務に追われがちで、決して身近な存在ではありませんでした。

斉藤 我々技術部門は、経営計画を実行するために実務レベルで自分たちが何をすべきなのかは理解していたと思います。ただ全体像を把握できていたとは言えません。だから、このプロジェクトで中期経営計画を作ると聞かされたときは、「自分たちが？」と驚きました。

岡田 外部環境も急速に変わりつつある中で、新たに立てる中期経営計画はグループ全体が変化に対応するための道しるべにする必要があります。「大変な作業になるのだろうか」と直感しました。



斉藤 私たちからの意見や提言に対して、上層部の方々が耳を傾けてくださったことは励みになりました。プロジェクト発足時に決めた「相手の意見を否定しない」というルールが、終始徹底されていたように思います。

嶋生 自分たちの提案した内容が、発表された計画には少なからず反映されていると思います。効率化やIT化などは私たち経理分科会が取り組んできたテーマでもあるので、プロジェクトの活動が活きたなと。

斉藤 技術分科会がまとめた施策は、全面的に中期経営計画に反映していただきました。部内でも、課題プロジェクトが立ち上がり各課題にそれぞれのグループ長が取り組むように推進しております。

岡田 営業分科会が取り組んできた、グループ内共通の業務フローマニュアルである「CFSTマニュアル」の改訂についても、中期経営計画に反映していただきました。収益向上のために自分たちが分析して提言してきた高付加価値化活動が、会社の将来にとって重要であることを再認識しました。

高田 私たち設計・生産設計分科会からの提言——国内の人材をより付加価値の高い業務へシフトするために、また作図外注の持続可能性に向けた基盤固めのために、設計・製図業務の一部を不二サッシフィリピン社へ移管する施策も採用されました。その実行のために、私自身がこの4月から現地で、作図能力の精度向上などに当たっています。重要施策の責任者として負荷を感じる場面もありますが、やりがいはいっぱいあります。

— このプロジェクトに参加したことで得られたモノ・コトは何ですか？

嶋生 自分も不二サッシグループの一員である、改めて実感できたことが大きいです。自分ごととして、不二サッシグループは今後どうあるべきなのかを、これからも考えていきたいと思っています。また、グループ内に様々なスキルや経験をお持ちの方々がたくさんいることを知り、「自分ももっと頑張らなくては」とモチベーションが上がりました。

高田 私もそう思いました。このプロジェクトに集まったメンバーは、今後の不二サッシグループを支えていく人たちです。その人たちが、こうしてヨコのつながりを築き、一体感を持つことができたことは、やがて会社の大きな財産となるはずです。

斉藤 今回生まれたヨコのつながりは、これからも大事にしていきたいです。また、「F30プロジェクト」では自分の直接の上司だけでなく、“斜め上”——他部署の上司ともつながりを持とうと言われてきました。斜めの人間関係が生まれ、他部門を動かしている方々の考え方を知ることができたことも、私にとって大きな成果の一つです。

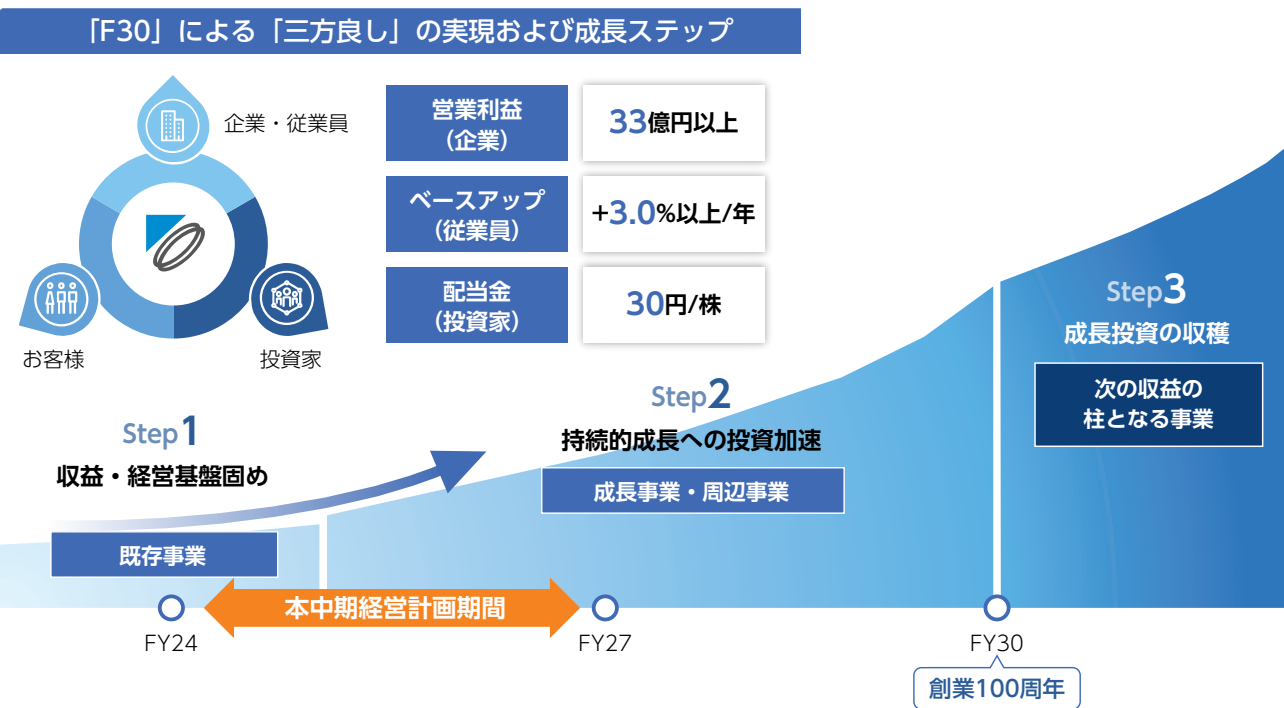
石本 自分自身の変化として、今まであまり意識してこなかった「経営」に対して関心を持ち、少し学んでみたいと思えるようになったことも大きいです。

岡田 私も、目の前の業務に関わるだけでなく、市場環境や業界全体の動向などへの関心が深まり、一步引いた視点から俯瞰的に見られるようになりました。

嶋生 社内やグループ内に対しても、一人ひとりの社員が、「部分最適」ではなく「全体最適」の考え方で仕事と向き合い、自分たちで不二サッシグループの未来を創っていくんだという意識を持てるようになって良いですね。

斉藤 今回のプロジェクトが一過性の取り組みとして終わることなく、グループ全体で自分たちの将来を議論できる仕組みが企業文化として定着してほしいです。

石本 今年4月には、不二サッシ社内に「F30推進部」が発足しました。グループ全体のけん引役として計画の実現を推進しつつ、風通しの良い社風づくりも進めてもらえることを期待しています。



名前・プロフィール



石本 純一
不二サッシ九州 管理部
積算・調達分科会



岡田 祐一
営業本部 東京支店 営業三部
営業分科会



斉藤 功男
技術本部 商品開発部 一部
技術分科会



嶋生 薫理
不二ライトメタル 管理本部 経営管理部
経理分科会



高田 晋平
営業本部 東京支店 設計三部 ※プロジェクト参加当時
[2025年6月現在、FUJISASH PHILIPPINES, INC.
(不二サッシフィリピン社) 出向中]
設計・生産設計分科会

価値創造のあゆみ

私たちは1930年の創業以来、サッシの製造事業を通じてビルや住宅における快適な居住環境を追求してきました。特に1958年に国内で初めて製造販売を開始したアルミサッシ分野では、一貫生産のアルミサッシ、カーテンウォールのパイオニアとして国内外のビッグプロジェクトに参画し、都市景観の創造に寄与してきました。



1957～
アルミサッシ、カーテンウォールのパイオニア

- 1957 米国フェントロン社と技術提携しアルミサッシの技術を日本に導入
- 1958 日本で初めてビル用アルミサッシの製造・販売を開始
- 1961 日本で初めて住宅用アルミサッシを発売
- 1964 日本初の超高層建築「ホテルニューオータニ」竣工
当社のカーテンウォール工法が採用される



ホテルニューオータニ

当社のアルミサッシは、当時の住宅・公営団地で主に使われていた木製サッシやスチールサッシに比べて軽量性や気密性といった点で優れており、隙間風が少なく居住環境の快適さを高める立役者となりました。また当社のカーテンウォールは、簡易な工法と軽量性によって多くの高層建築に採用されてきました。
このように長年お客様から信頼をいただいている背景には、製造から施工までの一貫生産体制が実現する製品・サービスの確かな品質があります。

90年以上の歴史の中で培った技術力と提案力は、不二サッシの価値創造プロセスの基盤を成すものです。そして現在は、2030年に迎える創業100周年を見据え、収益・経営基盤の構築および持続的成長への投資加速と、事業を通じた社会の持続可能性向上との両立により、ステークホルダーの皆様から選ばれる安定・安心な「企業グループ」を目指しています。



1997～
社会環境課題の解決力強化

- 1997 千葉カーテンウォール試験センター稼働
- 2004 バリアフリーサッシ「フラットステージ」発売
- 2007 自然風力換気窓「ウインプレス」発売
- 2009 防災備蓄・災害救助倉庫「Stock&Toilet」発売
- 2023 カーテンウォール内蔵型の被災状況可視化LED光センサ・アラートシステム開発、実験参画
- 2025 太陽光パネル循環型リサイクルスキームに参画



カーテンウォール試験センター

実物大の製品で耐災害試験を行えるカーテンウォール試験センターの設立や、製品を通じた高齢化・災害・資源循環などへの対策など社会への価値提供を続けています。



2000～
マグネシウム合金の医療機器への活用挑戦

- 2002 マグネシウム合金に関する研究を開始
- 2015 マグネシウム合金を使った医療機器開発を始動
- 2017 長洲町と立地協定を締結し研究棟を設立
- 2018 包括連携協定を結んだ(株)日本医療機器技研が「医療研究開発革新基盤創成事業」に採択



マグネシウム合金製医療機器部材

アルミニウム関連技術を基盤として新素材事業にも挑戦しています。近年ではマグネシウムが人の体内で安定的に分解・吸収される性能を利用した医療機器の開発・製品化に取り組んでいます。





1972～
リニューアルを通じて暮らしを豊かに

- 1972 取替サッシの製作・施工に着手
- 1995 不二サッシリニューアル(株)新発足
- 2019 日本防水工業(株)が新たに不二サッシグループに



不二サッシ
千葉工場外壁改修工事

日本の社会課題の一つである建築ストックに対してリニューアル事業も展開しています。大規模改修やリノベーションの領域で強みを伸ばしてきた歴史があり、様々な既存建築物の価値の向上を提供しています。



1975～
環境エンジニアリングへ技術応用

- 1975 アルミスラッジ(汚泥)を有効利用した汚泥固化剤「アルサイト」開発
- 2021 省エネ型「エコ混練機」発売



ダイオキシン類低温加熱分解装置

アルミ製品製造技術を下水汚泥固化や廃棄物処理に応用し、環境エンジニアリングへ事業がひろがりました。その後も、都市ごみ焼却施設における飛灰やごみ処理のシステム設計・施工を含むエンジニアリング全般や、土壌用粉塵防止剤などの提供を続けてきました。



2010～
気候変動対策、省エネ製品の拡充

- 2015 グループ初のメガソーラー運用開始
- 2015 LED搭載型カーテンウォールアルビームシステム開発
- 2018 アルミ樹脂複合サッシ「FNS-II 100R」発売
- 2024 樹脂内窓「インブラードII」発売
- 2025 再生低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」、「Reサッシ グリーン」生産開始



インブラードII

太陽光発電所増設、LED一体型建材や断熱サッシなど事業を通じた気候変動対策を強化しています。さらに、新構想の「Reサッシ」シリーズで建築物自体の脱炭素化もリードしていきます。



2020s
サステナビリティ経営の推進

- 2022 人権方針策定
- 2023 サステナビリティ委員会設置
- 2024 SBT認定取得
- 2024 GXリーグ参画



アルミリサイクル

2019年のSDGs賛同表明を契機に、サステナビリティ経営を推進しています。特にアルミニウムのリサイクル促進は、気候変動およびサーキュラーエコノミーに関係し、建築業界の低炭素建材需要にも応える重要なテーマです。

不二サッシの強み

アルミサッシ、カーテンウォールの
パイオニア

アルミサッシを日本に導入して以来、アルミ建材の製造販売を通じて、建築物の快適性・機能性向上に貢献し、豊かで持続可能なまちづくりをリードしてきました。

90年以上の歴史の中で培った
技術力と提案力

お客様のニーズに応えるとともに社会課題の解決に取り組んできた経験により、技術力と提案力に誇りを持ち、建築から暮らしを支えてきました。

一貫生産による確かな品質、
お客様との信頼関係

設計から施工まで一貫生産体制を構築し、品質と社会への価値提供の両立を実現。お客様とともに、未来に向けて夢をひろげ続けてきました。

不二サッシグループの製品・サービス ～ゆたかな暮らしをひろげていきます～

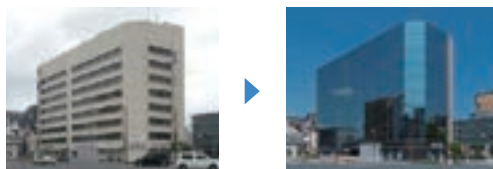
私たちは「ものづくり」という原点を大切にしながら、様々なソリューションを提供するメーカーかつエンジニアリング企業として、サステナブルな社会の実現のため革新的なチャレンジに取り組んでいます。それを可能とするのが、長年培った高度なテクノロジーとノウハウを継承・進化させ最大限活用する社員一人ひとりのパフォーマンスです。

ここでは、不二サッシブランドが約束する高い品質、ゆるぎない実績、新たな価値の創出によって、お客様の信頼に応え続け、社会をより豊かで持続可能なものに変えていくストーリーを紹介します。

リニューアル事業

まちを支える 気候変動対策 エネルギー

ストック化が進むマンションやオフィスビルなど様々な建築物にリノベーション工事を施すことにより、居住空間の快適性や資産価値の向上をお手伝いし社会課題の解決も推進します。



フロントサッシ事業

まちを支える

商業施設、公共施設、マンションなどのフロントエントランスでお客様の思いを形にします。



Fフロント水防タイプ

住宅建材事業

気候変動対策 エネルギー

住宅建材商品は、気候変動対策・省エネや高齢社会対応のバリアフリー化など、快適性を高めるための多様な機能が求められています。リフォームやリノベーション向けの商品も充実させ、お客様のニーズに応えています。



ウインドウリフォームシリーズ インブラードⅡ

ユニットハウス・防災関連事業

まちを支える

多目的に使用できるユニットハウスや防災備蓄倉庫などを揃え、まちと暮らしを支えています。

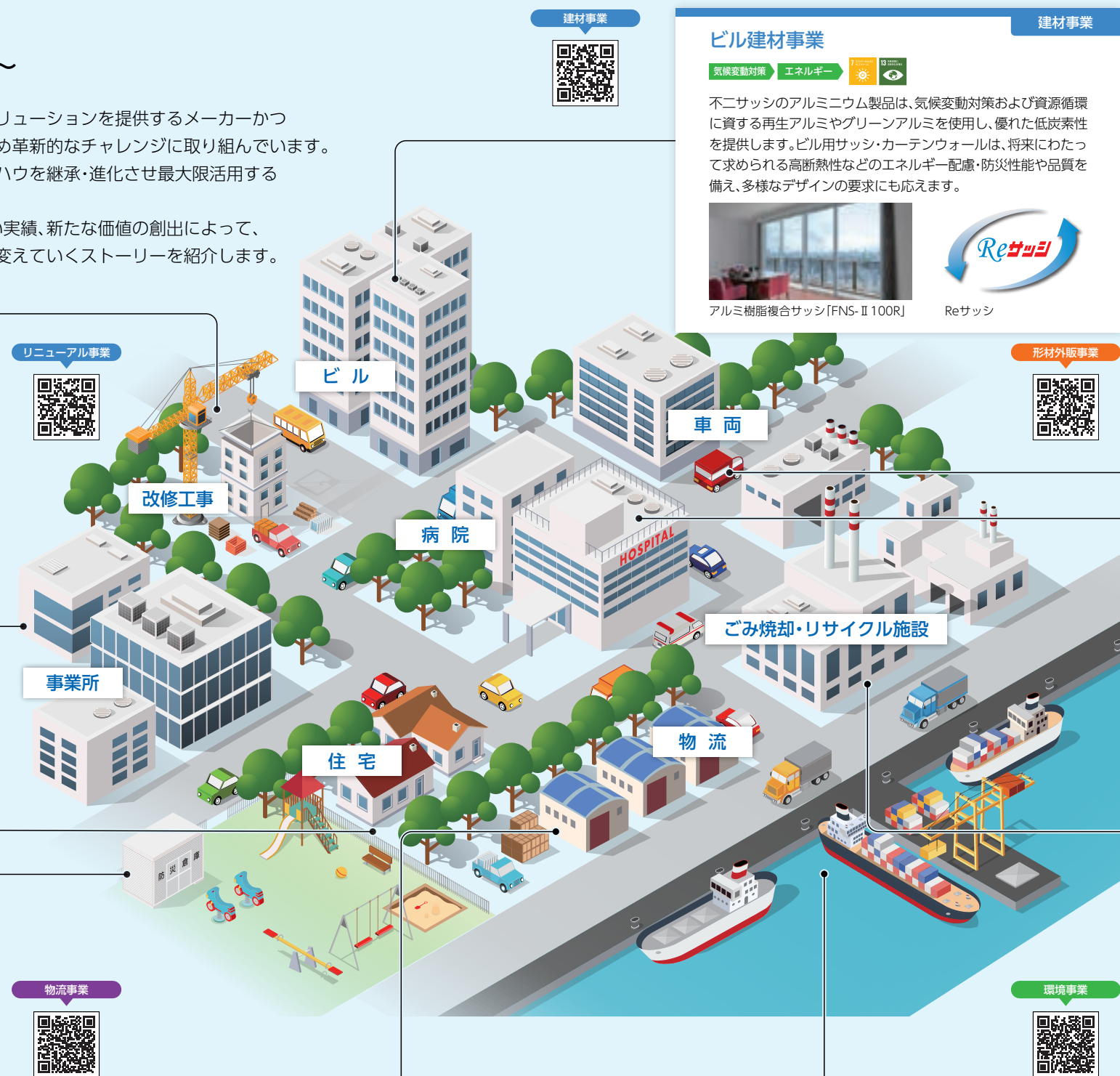


防災備蓄倉庫(フジストッカー)

海外事業

人材活用

フィリピン、ベトナム、台湾など東南アジアを中心に不二サッシブランド商品の展開や国際人材登用など現地企業とのアライアンスを積極的に推進しています。



倉庫・保管・流通加工

まちを支える 気候変動対策 エネルギー

全国の拠点や倉庫を活用した保管、検品、組立、梱包など多様なサービスの提供により、お客様の事業をサポートします。



千葉倉庫

移転・移設

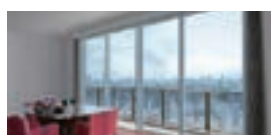
まちを支える

店舗の移転や引越、プラント設備などの移設に伴う解体から設置までのサービスを提供します。

ビル建材事業

気候変動対策 エネルギー

不二サッシのアルミニウム製品は、気候変動対策および資源循環に資する再生アルミやグリーンアルミを使用し、優れた低炭素性を提供します。ビル用サッシ・カーテンウォールは、将来にわたって求められる高断熱性などのエネルギー配慮・防災性能や品質を備え、多様なデザインの要求にも応えます。



アルミ樹脂複合サッシ[FNS-II 100R] Reサッシ

輸送・輸出入

まちを支える 気候変動対策 エネルギー

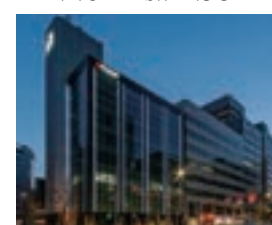
国内外にまたがる長距離輸送からDoor to Door輸送まで、あらゆる輸送に対応し日々の暮らしを支えています。輸送車両の低炭素化や船舶活用などのモーダルシフトへの対応も進めています。



光建材事業

気候変動対策 エネルギー

アルミ素材と独自開発したLEDモジュールとの融合により、施工の省力化、光を利用したデザイン性向上や動作の付与など、様々な商品の可能性を広げています。



アルビームカーテンウォール

アルミ型材・アルミ加工品事業

気候変動対策 エネルギー 循環型社会

アルミニウムの特性を活かした建材、半導体製造装置や自動車関連部品など多様な商品を提供しています。



仮設機材 ヒートシンク

足場板・梯子・脚立・建築現場用台車など、大ロットや大型材へも対応。 アルミの高い熱伝導性を活かした、電気製品などに用いる冷却パーツ。

マグネシウム合金事業

健康・医療

実用金属中で最も軽量のマグネシウム合金の押出加工技術の研究開発や製品化に取り組み、KU MADAI耐熱マグネシウム合金、生体吸収性マグネシウム合金などを取り扱っています。



マグネシウム合金製医療機器部材

リサイクル・粗大ごみ処理事業

循環型社会

粗大ごみ、不燃ごみ、廃プラスチックなどごみの種類に合わせた処理システムの設計をはじめエンジニアリング全般を行っています。

都市ごみ焼却飛灰処理事業

循環型社会 汚染防止

飛灰処理に関するシステム設計をはじめエンジニアリング全般を提供しています。



混練機

薬剤事業

循環型社会 汚染防止

飛灰中の有害重金属の溶出防止剤や、植物由来原料かつ生分解性の土壌用粉塵防止剤などを提供しています。

不二サッシグループの製品・サービス ～TOPICS～

不二サッシグループの製品・サービスは、
様々な場面でサステナブルな社会の実現に貢献しています。
その中から、この1年の実績の一部を紹介します。

建材事業 TOPICS①

建築物のライフサイクルカーボン削減対策

日本の気候変動対策における目標である2050年カーボンニュートラルのために、排出量の約4割を占める建築分野の削減が特に重要です。建築物のライフサイクルカーボン(排出量)は、使用時のオペレーショナルカーボンと、それ以外(製造・建設・廃棄など)のエンボディードカーボンに分類され、低炭素建材の需要が急速に高まっています。

アルミリサイクル率100%[Reサッシ R100]、再生可能エネルギー製錬[Reサッシ グリーン]を新投入

不二サッシグループは建築物のエンボディードカーボン削減をリードするため、2025年、再生アルミ・グリーンアルミ建材[Reサッシ]を展開します。これは1990年代にスタートしたリサイクル事業「リサッシ」、2000年代のリニューアル事業「Resash」の系譜に連なる第三世代となります。

・Reサッシ R100 【低炭素&サーキュラーエコノミー】

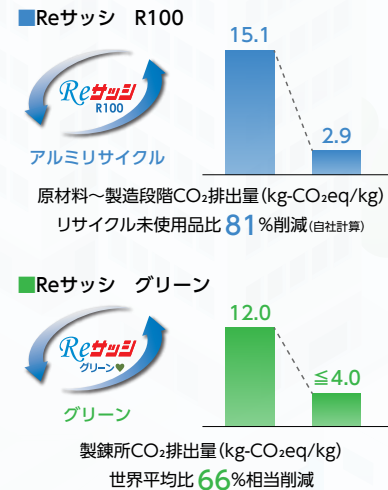
新地金比わずか3%のCO₂排出量であるアルミリサイクル材(市中回収材、リターン材)のみを使用します。原材料～製造の排出量はアルミ型材1kgあたり2.9 kg-CO₂eqに抑えられ、リサイクル未使用品に比べ81%の削減効果になります(自社計算値)。さらに、廃棄されたアルミ建材が低炭素建材として蘇ることにより(Reborn as Low-Carbon Aluminum)、サーキュラーエコノミーも推進します。

・Reサッシ グリーン 【再エネ(低炭素)&責任ある調達】

再生可能エネルギーで製錬したグリーンビレットのみを使用します。リオティント社のグリーンビレット「RenewAlTM」(2024年度調達契約締結)には第三者認証による原材料CO₂排出量証明書が付属し、アルミ製錬に関するCO₂排出量(Scope1・2)はアルミ1kgあたり4.0kg-CO₂eq以下が保証されます(世界平均比66%相当削減)。さらに、同社提供のサステナビリティ・ラベルとデジタルプラットフォーム「START」を通じて、原材料～製造におけるESG情報に高い透明性でアクセスも可能です。

住まいの断熱改修は「住宅省エネ2025キャンペーン」対象製品で

建築物のオペレーショナルカーボン削減には、冷暖房エネルギーを抑制する高断熱な窓が効果的です。当社グループの樹脂内窓「インプラードⅡ」は、既存の窓を変更することなく簡易に断熱性を高めたいというニーズに応えます。本製品は「住宅省エネ2025キャンペーン」における当社対象製品の一部であり、営業拠点では既存顧客への同キャンペーンの告知を積極的に行っています。



環境事業 TOPICS②

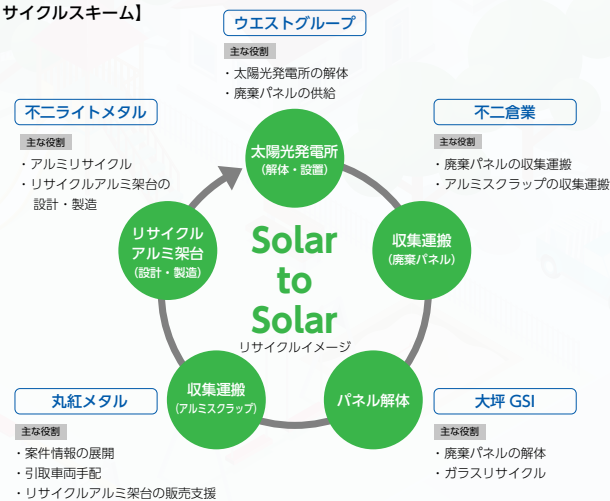
太陽光パネルの循環型リサイクルスキーム「Solar to Solar」を確立

不二ライトメタルおよび不二倉業は、協力企業3社とともに戦略的提携を締結し、廃棄される太陽光パネルのリサイクルスキーム「Solar to Solar」を確立しました。

日本国内では2012年の固定価格買取制度(FIT制度)導入以降、太陽光発電の普及が急速に進みました。一般的な太陽光パネルの寿命は20～30年とされており、2030年代から大量の廃棄パネルが発生することが予測されています。現状では、撤去されたパネルの多くが埋立処分されており、最終処分場の容量不足が懸念されています。

このスキーム全体を通して、リサイクル技術の向上や、新たな活用方法の開発にも取り組み、循環型社会、持続可能な社会の実現に向け貢献していきます。

【リサイクルスキーム】



建材事業 TOPICS③

学校で初めて瞬時損傷判定技術の実証実験を開始

将来の地震に備え、建物全体の機能を維持することは日常生活や経済活動の継続に不可欠です。特に、地震後すぐに建物の損傷度合いを把握し、安全性を判断する仕組みは重要です。

この課題に対応するため、技術本部では、建物の変形度合いを測るセンサとLEDを組み込んだ「LED光センサアラートシステム」付きカーテンウォールを開発・検証しました。建物内外に設置したセンサで地震時の建物の挙動を計測し損傷度を光で表示することで、地震直後に建物の安全性を判断するための迅速な情報提供を可能とします。

これまで当社は、防災科学技術研究所と連携し、実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)にて非構造部材や設備機器などの損傷状況を把握する実験を実施し、迅速な被害判定システムの開発に取り組んできました。次のフェーズでは、愛知県豊橋市立磯辺小学校にて、愛知県豊橋市、防災科学技術研究所、東京大学、名古屋大学および文化シャッター(株)と連携し、実建物をを用いた瞬時損傷判定技術の実証実験を行っています。

これらの実証実験を通じて避難所利用の判断材料を提供可能にし、防災対応マニュアル「ファーストミッションボックス(FMB)」との連携を図り、被災後の社会活動継続に貢献するシステムの実用化を目指しています。



カーテンウォール部材設置状況



LED光センサアラートシステム発光イメージ

環境事業 TOPICS④

積水ハウス向けEV充電器設置用ボールの共同開発

EVは自動車の電化による脱炭素化への貢献と、蓄電池としての利用による光熱費削減、停電時の補助電源活用など多くの利点があります。2025年4月、東京都では新築マンションなどでのEV充電器の設置が義務化され、集合住宅でのEV利用のニーズも高まっています。しかし、EV充電器などのインフラは十分とは言えません。

そのような社会課題がある中、当社は積水ハウス株式会社と共同で、積水ハウス株式会社の賃貸住宅シャームゼン、戸建住宅向けEV充電器設置用ボールを開発いたしました。シャームゼン用EV充電器設置用ボールは1本のボールでコンセントを1個付と2個付ができるオリジナルボールとなります。コンセントの1個付、2個付によって効率的にEV充電器設置用ボールを配置できます。

今後増えてくるEVニーズに対応するとともにEV充電インフラ不足の解消に寄与し、ZEHにおけるさらなるエネルギーの有効活用にご貢献します。



積水ハウス株式会社のシャームゼンZEHの例



正面図コンセント2個付仕様(横)

サステナビリティマネジメント

Sustainability Management

サステナビリティの基本的な考え方

不二サッシグループは新たな中期経営計画のもとで企業価値の向上を図るため、サステナビリティ経営を通じて「ものづくり」を起点とするメーカーかつエンジニアリング企業としての責任を果たし、すべてのステークホルダーから選ばれ誰もが安定・安心できる企業グループを目指します。

サステナビリティビジョン2050

「不二サッシグループ サステナビリティビジョン2050」(以下、P.23までビジョン)はサステナビリティ経営の基本方針です。経営理念、マテリアリティおよび環境・社会・ガバナンスの各種方針を結び付け、グループ全体および個人が取り組むべき方向を示しています。

不二サッシグループ サステナビリティビジョン2050

『不二サッシは窓から夢をひろげていきます』の経営理念のもと、『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループ』を目指します。



E 環境 Environment

- 2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
- くらしを支える生態系の保全と回復を目指します
- 資源循環の促進を追求します

S 社会 Social

- 社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
- 人権を尊重した公正な事業活動を実践します
- 地域社会との協働を行います

G ガバナンス Governance

- 全てのステークホルダーに対し、適切な情報開示と責任ある対話を行います

ガバナンス

サステナビリティ委員会(以下、P.23まで委員会)とサステナビリティ推進室(以下、P.23まで推進室)が中核となり、気候変動、自然資本、人的資本、人権などの各種課題に関する計画・目標策定、推進・モニタリングなどリスクおよび機会への対応を行っています。

本委員会は四半期に一度開催され、代表取締役社長が委員長を務め、取締役会には四半期に一度報告を行っています。取締役会はGHG排出量削減などのKPIや様々な情報に基づき、委員会への審議や諮問を通じて監督しています。

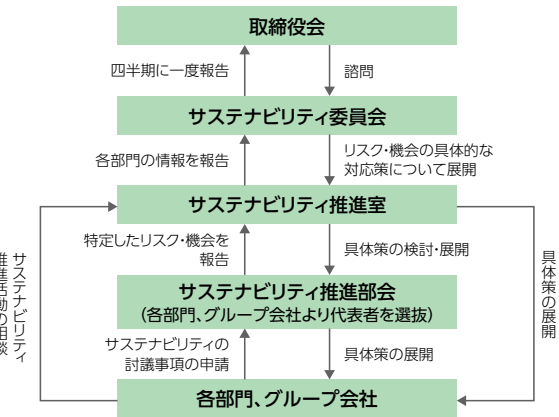
戦略

戦略は推進室およびサステナビリティ推進部会(以下、P.23まで推進部会)が立案し、委員会で審議されます。

リスク管理

推進室および推進部会による特定に基づき、委員会で審議・評価を経た対応策について取締役会が管理・監督し、推進室を通じて各事業部へ展開、というプロセスで実施しています。

また、各所管管理部署も経営レベルへ定期的に報告を行っており、さらに全社リスクを一元的に管理し対応する委員会の設置なども検討中です。



指標および目標

推進室および推進部会が立案し、委員会における審議を経て設定します。現在は、ビジョンおよびマテリアリティの中で優先順位が高いと判断した項目から順に取り組んでいます。

1 脱炭素(気候変動対策) 参考 ▶ P.39

2050年までにGHG排出量を実質ゼロにすることを目指し、SBT認定目標(短期・ネットゼロ)およびGX-ETSに基づくGHG排出量削減目標を設定しています。また、具体的対策の全体像として脱炭素ロードマップを策定しています。

不二サッシグループ 脱炭素ロードマップ ~Dream For 2050~

【削減施策】

Scope 1・2	省エネ	工程改善、脱炭素技術や車両・設備などの導入
	燃料転換	天然ガス化、電化および水素化
	再エネ	太陽光発電の導入拡大、再エネ電力、非化石証書などの調達
Scope 3	原材料	アルミリサイクル率およびグリーンアルミ調達量の増加
	取引先	調達先・販売先の調査および排出量削減に向けた協力
	輸送	輸送の効率化、モーダルシフト
	製品	脱炭素関連製品の開発・販売強化
緩和	除去	大気中 CO ₂ 除去などのカーボンクレジット調達

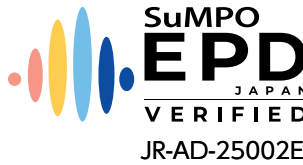


Web【トップ > 企業情報 > 当社のサステナビリティ】

Scope1・2削減のため、脱炭素志向の設備導入、太陽光発電所増設などの再生可能エネルギー活用、カーボンクレジット調達などを実施しています。

Scope3削減策として、製品価値向上と排出量削減を両立する脱炭素関連製品の強化に注力しています。従来の断熱建材・省エネ建材に加え、2025年度には建築物の生涯で脱炭素に資する再生低炭素アルミ建材「Reサッシ」シリーズの新投入を公表しました(詳細は ▶ P.20.41 掲載)。

さらに、同じく2025年度には千葉事業所で製造する建材用アルミ型材(アルミリサイクル率70%)のLCA第三者



認証であるSuMPO EPDを取得しました。ほかに、浸水など自然災害への対策、防災をテーマとする研究開発などに取り組んでいます。

2 生物多様性・生態系対応 参考 ▶ P.42

TNFDフレームワークに基づき、自然との依存影響関係の特定、リスク・機会への対応策を検討しています。

3 人的資本

企業発展の原動力は優秀な社員であるとの認識に立つ一方、社会的な労働力不足への対応も重要課題と捉えています。個人の成長支援や多様な働き方の促進、持続的な人材輩出サイクルの構築に努めており、2024年度からはエンゲージメントサーベイを導入して組織全体のエンゲージメント向上に取り組んでいます。

女性活躍推進の観点より、2024年6月に女性の社外取締役を招聘し、採用者に占める女性割合を30%以上とする目標に向け社内ですらなる建設的な議論を進めていきます。

国際人材の登用では不二サッシフィリピン社に開設した設計センターへの講師派遣、日本国内の研修などを通じてスキル向上に努めるとともに、社内における日本語教育充実などによる高度外国人材の採用などを通じて、さらなる人員の増強を進めていきます。

また、2022年7月以降、カンボジアから毎年10名の技能実習生の受け入れを継続しており、2025年度はの中から、特定技能検定合格者を社員として迎え入れました。

障がい者雇用については社会福祉法人メイブルの運営支援を通じて障がい者の就業機会の確保に努めています。

4 人権

「不二サッシグループ人権方針」に基づき、人権尊重の姿勢を明文化しています。取引先とのエンゲージメント強化、サプライチェーン全体での人権リスク管理へ向けて取り組んでおり、委員会を通じた体制整備とモニタリングを継続しています。

サステナビリティマネジメント(マテリアリティー一覧)

不二サッシグループは経営理念「窓から夢をひろげていきます」のもと、100年企業に向けてすべてのステークホルダーの皆様から「選ばれる企業グループ」として存在感を発揮するために、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

サステナビリティ経営の領域別実績

持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標SDGsの制定(2015年)から10年、サステナビリティ経営の重要性は今も高まり続けています。不二サッシグループでは、SDGsおよび社会情勢や事業環境を踏まえ、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)の観点でマテリアリティ(重要課題)を特定しています。ここでは、このマテリアリティを基に当社グループの事業活動を整理し、KPI(重要業績評価指標)の一部およびその進捗状況を一覧表にしています。

マテリアリティ			推進施策 指標および目標	2024年度実績 目標に対する進捗	対応するSDGs [P.11]	掲載ページ
環境	脱炭素に向けた取り組み (気候変動への対応)	消費エネルギーおよび サプライチェーンCO ₂ 排出量の削減	●脱炭素関連商品の開発(省エネ・高断熱、LCA認証付、樹脂・木製組み合わせなど)	●LCA対応 アルミリサイクル率70%形材のSuMPO EPD認証取得 ※2025年度 再エネ製錬・排出量証明書付きグリーンビレット調達契約 ●断熱商品 FNS-Ⅱ100RS/FNS-RER/FNS-Ⅱ改装サッシ/インブラードⅡ/インナー防火スクリーン ●省エネ商品 アルビームカーテンウォール/アルビームインテリア/アルビームプラス フォルティナ®	7911 1315	6,17,20, 38,40,41
			●SBTネットゼロ目標 FY21比FY30:Scope1+2▲42%、Scope3Cat.1,4,11▲30% ●アルミリサイクル率の向上 建材事業:100% ●カーボンクレジットの戦略的調達	●グループScope1+2= 69,313t(前年度比 ▲1.0%)、Scope3Cat.1,4,11= 645,989t(前年度比 ▲2.0%) ●非化石証書付き電力契約 ●SBT短期・ネットゼロ目標認定取得 ●GXリーグ参画 ●東証造アルミリサイクル率70%超 ●J-クレジット再エネ(太陽光)1,000t保有	791213	17, 38-41
			●省エネ、燃料転換・脱炭素設備導入およびその推進策として社内炭素価格設定	●デマンド監視運用/設備自動制御/空調使用抑制/照明LED化/断熱改修など	791213	19,40,41
			●デマンドレスポンスを通じた電力安定供給への貢献	●デマンドレスポンス対応10回	1117	-
	循環型社会の形成	再生可能エネルギーの創出	●太陽光発電システムの増設および安定的運用による発電計画の達成	●既設:千葉事業所第一・第二、関西不二サッシ、新規:不二ライトメタル本社、不二サッシフィリピン社 合計発電量: 5,766MWh(自社削減量換算: 55,289t、削減貢献量: 1,580t)	79	17,20,40
		資源の有効活用および ゼロエミッションの推進	●廃棄物排出量の削減、リサイクル促進 リサイクル率97%以上 ●アルミ水平リサイクル促進(企業間連携を含む) ●新設備・技術導入による省資源化や設計・生産計画改善による生産量最適化	●廃棄物排出量:グループ全体 15,003t、生産拠点12サイト 13,357t リサイクル率 96.8% ●不二ライトメタル、不二倉業が太陽光パネルの循環型リサイクルスキームに参画 ●図面・仕様チェックによる過剰設計防止・運送効率配慮、梱包改善	91112 1317	17,20,41
		環境エンジニアリングによる貢献	●ごみを無害化・資源化する処理施設の設計～維持管理 ●重金属溶出防止や土壌粉塵防止など各種薬剤の製造販売	●フラインेटR(植物原料・生分解性の粉塵防止剤)の販売 ●納入機器のメンテナンス推進 ●エコ混練機の販売 ●キレート剤(重金属の溶出防止剤)の販売	361214	16,41
		製品含有の化学物質削減	●SDSなどに基づく部品・部材の安全性確認 ●VOC排出量の削減	●開発商品に使用する材料のSDSを確認し、指定化学物質の使用を回避	312	38
	サプライチェーン マネジメント	グリーン調達の推進	●グリーン調達に向けた部品・材質の切り替え ●サプライチェーンの環境活動向上への取り組み	●サプライチェーンの環境活動調査 ●樹脂部品の材質刻印の推進 ●各生産拠点個別購買から集中購買比率向上の推進	12	42
		物流におけるサステナビリティ	●全社での物流改革 ●輸送の効率化、モーダルシフト	●全社テーマとして「物流改革プロジェクト」を推進 ●省CO ₂ ・熱中症対策トラック、EV導入 ●「ホワイト物流」推進運動	781113	19,41
社会	人権の尊重および 従業員満足度の向上	人権デューデリジェンス および ダイバーシティ・エクイティ& インクルージョン	●人権デューデリジェンスの推進 ●定年後再雇用の推進 ●育児支援制度の活用推進 ●女性従業員の採用・育成・定着 ●ハラスメント対策 ●グローバル人材の活躍推進 ●障がい者就労支援活動の推進 ●採用者の女性比率目標:30%以上、女性管理職比率目標:10%以上	●サプライヤーの人権取り組み調査 ●社内インターンシップによる能力開発・キャリア形成 ●フィリピン・カンボジアなど国際人材の登用 ●障がい者施設への業務委託 ●ハラスメントの防止、全社教育の継続 ●障がい者雇用率: 2.53%(前年度比▲7%) ●定年後再雇用者数: 38名(前年度比90%増) ●採用者内女性比率: 30.2% ●女性管理職比率: 5.1% ●育児休業利用者: 11名(前年度比▲35%) / 短時間勤務利用者: 19名(前年度比27%増)	58	18, 29-34
		人的資本育成	●キャリア開発のための取り組み ●人的資本育成の強化・拡充 ●多能工化(マルチタレント化)推進 ●社会的な人材不足への対応:持続可能な人材輩出サイクルの構築	●通信教育による自己啓発促進 ●公的資格取得支援 ●社内研修制度 ●エンゲージメントサーベイ ●若手社員の新中計策定PJなどへの参画 ●不二サッシ施工技能者育成PJ発足、専担会社として不二サッシS・C株式会社設立 ※2025年度	48	6,7, 12-15, 32-34
		従業員の健康促進	●従業員の健康のための取り組み (時差通勤、テレワーク利用による出勤シフト制も含む)	●前立腺がん検診受診率: 92% / 乳がん検診受診率: 46% / 子宮がん検診受診率: 39% / 人間ドック補助利用者: 本人31名、家族5名 ●試験研究センター折半屋根に遮熱シート設置	3	34,35
	公正な事業慣行	サプライヤーの労働環境配慮	●「ホワイト物流」推進運動	●「ホワイト物流」推進運動 ●全社員対象の下請法教育	8	18,41
	お客様サポート	製品品質・安全への取り組み	●製品安全行動指針に基づくCS活動推進 ●製品事故・品質異常の対応	●HPIに消費者への注意喚起を掲載 ●動画を用いた取扱説明書	12	30
	コミュニティ参画 および発展	持続可能な暮らしとまちづくり	●リニューアル事業の拡大 ●都市防災・インフラBCP強化への貢献 ●健康・福祉の支援	●CW試験センターにおける産官学との共同研究や社外からの自然環境模擬試験などの受け入れ ●学校で初めて瞬時損傷判定技術の実証実験を開始(LED光センサアラートシステムの開発) ●先進的怒りノベ2025事業・子育てグリーン住宅支援事業 ※2025年度	391113	16-18,21
		社会貢献活動・文化活動などの推進	●事業所周辺地域との連携による社会貢献活動 ●環境貢献活動への支援・参加 ●各種学校との連携による学生のスキルアップ ●被災地などの支援活動 ●音楽・スポーツ・芸術などの活動の支援	●全国事業所における清掃・防災・献血活動など ●令和6年能登半島地震の復興支援 ●千葉県による絶滅危惧種ヒメコマツの回復計画に系統保存サポーターとして協力(苗の育成・管理) ●学生のインターンシップや見学の受け入れ ●事業継続計画(BCP)の一環として地下水膜ろ過システムを運用	41112 1517	31,33
ガバナンス	企業統治	コーポレートガバナンスの推進	●取締役会の実効性評価 ●コンプライアンスの強化	●取締役会の実効性評価の実施 ●サステナビリティ委員会開催(四半期に一度以上) ●ガバナンス強化施策(役員報酬の決定方針・社外役員との意見交換会など) ●新中計策定PJ「F30PJ」完了、F30推進部設立	9121617	5,12-15, 22,23,29
	コンプライアンス	法規制や社会規範の遵守	●コンプライアンス教育の充実 ●法規制・条例、その他規制の遵守状況の確認	●法遵守のためのコンプライアンス教育の実施 ●環境法令違反件数: 0件 ●関係会社への法遵守環境監査実施	412	28,29
	コミュニケーション	ステークホルダーとの協働	●ステークホルダーとの対話の推進 ●ステークホルダーとのコミュニケーション機会の創出	●うんこ啓発ドリル「くらしと怒」作成、全国の小学校へ寄贈開始 ※2025年度	81217	7,22, 36,37
	成長戦略・ 事業継続計画(BCP)	技術力・危機管理能力の強化	●技術力・施工力の強化 ●製品の安定供給 ●マグネシウム合金事業の推進 ●危機管理・対応能力の強化	●電子タグ(RFID)を用いた建築部材の一元管理の実証(他社協働) ●IT戦略構築プロジェクト ●「一般社団法人住宅開口部グリーン化推進協議会」運営に参画 ●工場生産性向上に向けた自動化の推進 ●マグネシウム合金生体吸収性ステント研究開発に関する共同研究開発契約	91217	6,7,17, 19,31,36,
		グループの成長・発展	●海外事業の再構築 ●国内外企業の株式取得、業務提携 ●製品・サービスの受賞	●不二サッシフィリピン社(FPI)でガラス入りCWを初めて製作 ●アルミ板・形材加工面への染色技術「日本アルミニウム協会賞」開発奨励賞 ●アルビームプラスデザインパンチングパネルシステム「プロダクトオブザイヤー2024」(日本商環境デザイン協会主催)準グランプリ ●「2024年日本産業広告賞」新聞部門 シリーズ広告賞第1席	9101217	16,17,31, 37

サステナビリティ経営の全体像

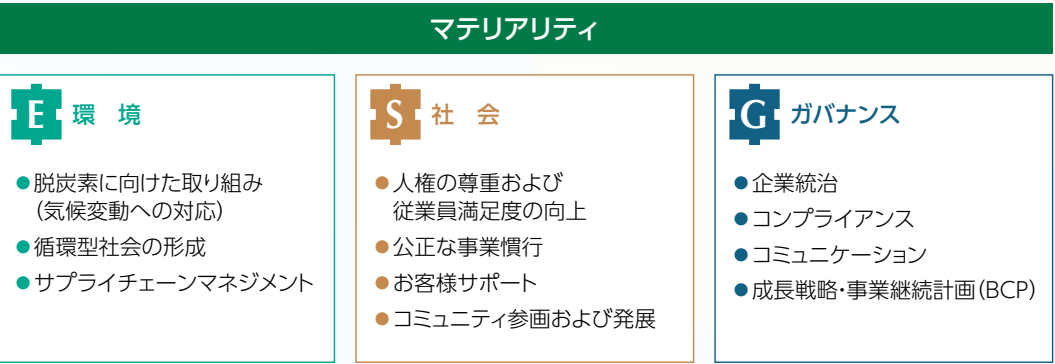
経営理念

不二サッシは窓から夢をひろげていきます

サステナビリティビジョン2050

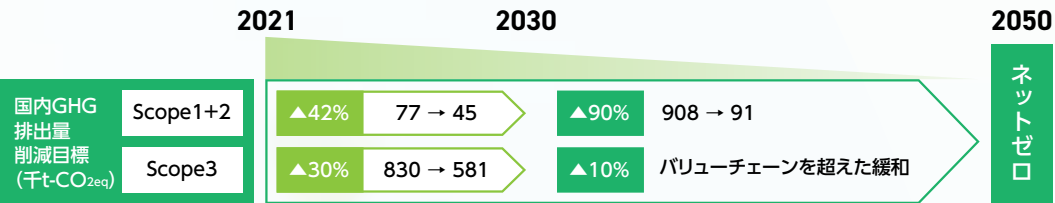
『不二サッシは窓から夢をひろげていきます』の経営理念のもと、
『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループ』を目指します。

サステナビリティマネジメント



不二サッシグループ 脱炭素ロードマップ
～ Dream For 2050 ～

2050年カーボンニュートラルに向けて設備の低炭素化や太陽光発電量の拡大、低炭素アルミ製品の強化から取り組みを始め、社会課題対応を推進力として価値創造を進めていきます。



企業価値の最大化



社会課題
の解決



経営戦略

共通価値の創造

中期経営計画

事業環境の変化に合わせ、3年ごとに見直し

(2025-2027年度)

業務のデジタル化などによる生産性向上 /
新商品開発・プロセス管理によるさらなる収益力強化

事業戦略	経営基盤	資本政策
事業環境の変化に応じたポートフォリオの転換と基幹事業の合理化、成長事業への投資を行い、収益基盤を強化	企業の根幹たる人材・ITシステムなどの経営基盤を再構築し、創業100周年とその先へ向けた基盤を整備	事業から生み出されるキャッシュフローの一部を株主に還元

中期経営計画 基本方針

収益面・経営面の双方で確固たる基盤を構築し、
誰もが安定・安心できる企業グループとなる

F30プロジェクト 中計期間内に3つの30「サンマル」達成

営業利益(企業) 33億円以上	ベースアップ(従業員) +3.0%以上 / 年	配当金(投資家) 30円 / 株
--------------------	----------------------------	---------------------

資本市場からの期待・信頼の獲得

2027年度目標値：
売上高 1,100億円 / 営業利益 33億円 / 営業利益率 3.0% / ROE 8.0%以上

株主還元

配当
安定配当の継続と
財務基盤の強化

経営資本

人的資本	知的資本	製造資本	社会・関係資本	自然資本
●従業員数 2,889名 ●資格保有者数 332名(延べ)	●研究開発費 1,312百万円 ●権利取得数 788件	●生産拠点 12拠点	●特約店 68社 ●工事共済会 204社 ●製作協力会 147社	●エネルギー電力量 96,280MWh

設備投資 2,424百万円

財務資本

全体売上高 104,754百万円 / 総資産 84,286百万円 / 純資産 23,591百万円 / 自己資本比率 27.7% / 自己資本利益率(ROE) 10.1%

G | ガバナンス

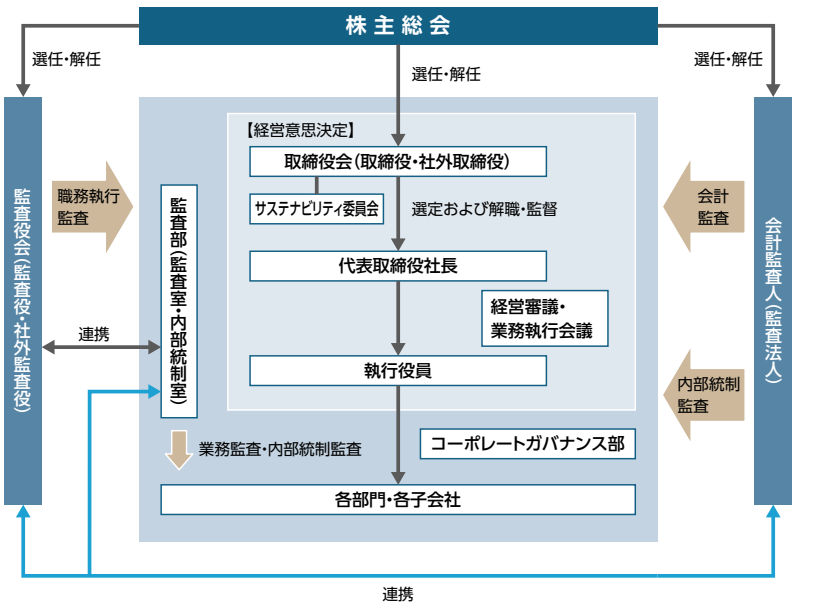
基本的な考え方

グループ全体の企業価値の向上と強固な経営基盤の構築を通じて、お客様に信頼され、社会に貢献し続けるという経営基本方針を実現するため、責任ある経営体制の確立と、経営の透明性向上並びに経営に対する監視・監督機能の強化に努めることで、ガバナンスの強化を図っています。

また、当社および関係会社新社長就任により事業改革を推進しています。



コーポレートガバナンス体制



— コーポレートガバナンス

主な機関の概要

取締役会

当社の取締役会は、経営の監督機能が適切に発揮されるよう、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資する資質を備えた構成としています。2024年度当初は取締役7名（うち独立社外取締役2名）、監査役3名の計10名で構成していましたが、2024年6月27日の株主総会にて、新たに1名の社外取締役を選任し、以降は、取締役8名（うち独立社外取締役3名）、監査役3名の計11名で構成しています。

取締役会は、原則として月1回の開催のほか決算承認など、2024年度は年間19回開催し、当社および当社グループの重要な経営方針の決定、業務執行の監督、業務執行状

況の報告などを行いました。また、株主総会後は、議案・報告のほか、当社グループの企業価値向上に向け、取締役会で討議を行っています。

監査役会

当社の監査役会は、現在、常勤監査役1名、社外監査役2名（うち独立役員1名）の計3名で構成しています。監査役会は、会社の内部統制システムや内部監査部門、会計監査人との緊密な連携を図りつつ、監査役会が定めた監査方針に従って年度の監査計画に基づく監査を実施し、監査役会において、監査の実施状況や結果に関する情報の共有、意見の交換を行っています。また、2024年度は、主要営業拠点の一つである大阪支店に監査役3名が現地往査を行いました。

役員報酬

報酬の決定に関する方針

取締役会において、取締役の個人別の報酬などの内容に係る決定方針を決議しています。取締役および執行役員の報酬に関しては、独立社外取締役が参画する「役員人事・報酬協議会」において、個別役員の報酬額の案を協議の上策定し、取締役会において決定しています。

実効性評価

取締役会が有効に機能しているかを検証するため、2024年度において、各取締役による自己評価などを実施し、運営面の確保および審議の内容に関して分析し、多角的な検討や審議につながるよう努めました。

また、2023年の7月から取締役会で行っている「討議事項」については、議論に参加する雰囲気は醸成され、良い影響を与えていると多数の評価がありました。

— コンプライアンス

コンプライアンスの推進

コンプライアンスセミナー

2024年度は、前年度に引き続き、重点的に意識改革を行うべく「みんなで考えよう！ハラスメント防止のために」と題し、セクハラ・パワハラに関するディスカッションを中心に90分の対面講義およびグループディスカッションをグループ会社11拠点で実施しました。各グループで活発な意見交換が行われ、様々な回答結果を共有し、コンプライアンス意識の向上につなげることができました。

また、例年と同様に、以下の動画を作成し全従業員に受講してもらい、知識を深める機会を設けました。

対面による実施セミナー各拠点の受講者数

日程	2025.01.16	2025.01.24	2025.02.07	2025.02.17
部署・拠点	不二サッシ リニューアル	不二サッシ 中四国	日海 不二サッシ	不二サッシ 関西
受講者数(名)	55	11	67	23
日程	2025.02.17	2025.02.18	2025.03.06	2025.03.07
部署・拠点	不二サッシ 東海	奈良 不二サッシ	不二サッシ 東北(仙台)	不二サッシ 東北(盛岡)
受講者数(名)	20	25	63	12
日程	2025.03.11	2025.03.13	2025.03.14	
部署・拠点	不二サッシ 関東	東亜サッシ	不二サッシ 九州	
受講者数(名)	77	15	54	

※不二サッシ東海、不二サッシ関東はリモート受講者を含む

取締役会は今後も経営戦略を決定・推進する機関として、中期経営計画およびコーポレートガバナンス・コードの方針に基づき、業績回復に向けた議論をさらに深めていく必要があります。引き続き取締役会の監督機能を強化するとともに、企業の持続的な成長に資することによって、実効的な監督、ガバナンスの強化につなげていきます。

社外役員の意見

多様性の観点においては、当社の組織風土や執行側の意識から短期的には現行体制を継続の方が緩やかな改革に進んでいけると考える。一方で中長期的には特に外国人取締役の登用を検討し、グローバル経営が必要であると考えている。

社内役員の意見

収益性向上策(現行施策の進捗把握・新たな施策の検討)は継続させるべき。加えて、今後のPBR向上のためには成長性に資する施策(事業ポートフォリオ見直しに加え、ESG推進・人的資本への投資・エンゲージメント改善など非財務面の施策も含む)の検討は必須と考える。

動画による研修テーマ

受講形態	コンテンツ	担当部門
必須	認識の違いを理解し、心理的安全性の高い企業グループを目指していきましょう！	コーポレートガバナンス部
必須	このテーマは押さえておきたい！不二サッシグループのサステナビリティ2024	サステナビリティ推進室

現地開催（リモートを含む）で422名、動画視聴によるセミナーで2,135名の役職員が受講しました。

今後もコンプライアンス浸透のため、動画や対面を織り交ぜたセミナーを推進していきます。

ホットライン

不二サッシでは、法令違反や社内規定違反を相談する窓口として、内部通報制度である「企業倫理ホットライン」を設けています。社内報に「企業倫理ホットライン」の通報先を掲出するなど社内周知を行い、第三者機関の窓口を利用することで、通報者の保護と適正な処理を行い、問題の早期発見と解決を図っています。

さらに、2022年6月から従業員100名以上の6拠点に相談窓口を新設し、窓口を増やすことで通報しやすい環境づくりに努めています。2024年度は、これに係る各拠点の担当者に、オンラインにて意見交換会を実施し、課題や対応を共有しました。また、その運用・通報状況について取締役会および監査役会で報告を行うとともに、当社グループ内のイントラネットで開示しています。

S | 社会

基本方針

社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
人権を尊重した公正な事業活動を実践します
地域社会との協働を行います



ハイライト(不二サッシ単体)

管理職に占める女性の割合

5.1 %

障がい者雇用率

2.5 %

定年後再雇用の割合

95.0 %

育児支援制度利用者数

30 名
(内男性3名)

— 製品品質・安全への取り組み

不二サッシグループ 品質保証体制

基本方針

コンプライアンス経営に基づいた安心・安全で地球環境に優しい商品づくりを通して、グループ全体で顧客満足に徹し、会社業績の貢献に向け邁進する。

品質管理活動報告

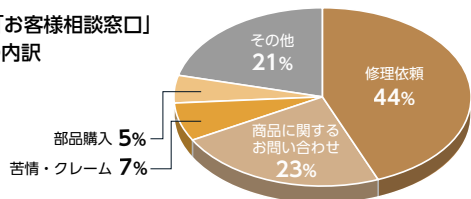
ISO9001・JIS取得状況

各生産拠点でISO9001およびJISマーク表示制度を取得するとともに、それに則った品質マネジメントシステムを構築し、グループ全体で品質管理活動の取り組みを強化することで、品質レベルの維持向上を図っています。

CS推進活動報告

お客様相談窓口

お客様からのフリーコールによるメンテナンス部品の購入や修理の依頼などに対しては、お客様の在住エリアを認識し、直接、担当地域の窓口へ迅速につながる転送システムを採用し、お客様満足の向上につなげています。

2024年度「お客様相談窓口」
受付内容の内訳

不二サッシグループ 製品安全行動指針

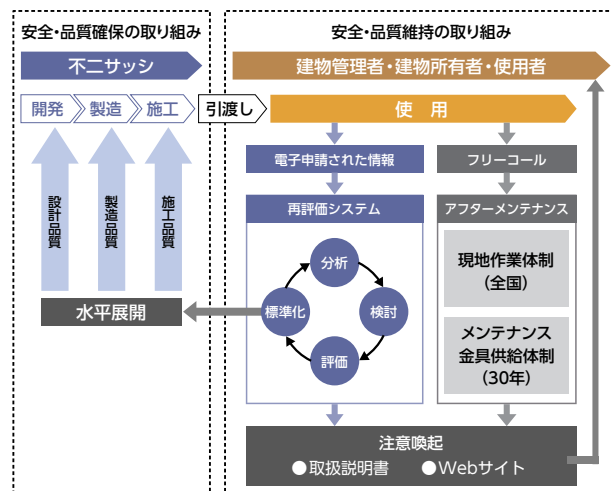
不二サッシグループは、コンプライアンス経営の一環として、製品安全を経営上の責務と位置付け、お客様に安心・安全な製品をお届けするために、グループ全体で製造・販売する製品の安全確保に努め、社会に貢献し、信頼される企業となるよう積極的に取り組んでいきます。

Web【トップ＞企業情報＞製品安全行動指針】



苦情処理対応

お客様の苦情・フレームは担当拠点が受け付け、調査・対応し、電子申請された情報を品質保証部で管理します。改善が必要な場合は再評価システムで分析・検討し、恒久対策を実施します。対策情報は各部門に共有され再発防止や新商品開発の際の確認事項としても活用されています。



— 事業と社会のつながり

令和5年度日本アルミニウム協会賞
「開発奨励賞」を受賞

不二サッシと不二ライトメタルが開発した「アルミ板・形材加工面への染色技術」が、令和5年度日本アルミニウム協会賞の「開発奨励賞」を受賞しました。この賞は、選考委員会から推薦された開発製品に贈られるものです。この染色技術を応用し、日海不二サッシが得意とする“デザインパンチングパネル”の表面色と孔加工面を異なる色で染色することで、角度によって色味が変化し、立体感や奥行きを演出するなど、新たな付加価値を提供します。今後も当社が持つ技術を活用し、革新的な製品開発に取り組み、社会に貢献する商品やサービスを提供していきます。



授賞式にて

染色例

「プロダクトオブザイヤー2024」準グランプリを受賞

「プロダクトオブザイヤー2024」(日本商環境デザイン協会主催)で、「アルビームプラスデザインパンチングパネルシステム」が準グランプリを受賞しました。審査では「無機質なパンチングパネルを有機的かつ美しく表現し、グラデーション塗装やLEDとの組み合わせで躍動感と優美さを備えたプロダクトに昇華させている」と高く評価されました。無限の可能性を秘めたデザインパンチングパネルは、今後、建材にとどまらず、様々な分野での活用が期待されています。



盾・表彰状



日海不二サッシ エントランスの壁面

不二サッシフィリピン社

人口1億人超・平均年齢20代と若い労働力が豊富なフィリピンにおいて、不二サッシフィリピン社の設計センターでは設計者不足が進む日本市場に対応するため、優秀な人

材を採用し、不二サッシグループ向け作図・訂正業務を拡大しています。また、これまで東南アジア向けにサッシ、カーテンウォール(ガレリアタイプ)を生産してきましたが、2024年度には初めてユニットカーテンウォール(ガラス組み込み)の出荷を完了しました。今後はこの分野の生産拠点としての地位確立を目指します。

令和6年能登半島地震の復興支援事業

不二倉業は、能登半島地震の復興支援の一環として、石川県から産業廃棄物収集運搬業の許可を取得し、アームロール車2台を導入して災害廃棄物などの収集運搬に取り組んでいます。



社会的な労働力不足への対応(DX、自動化)

不二サッシグループでは、DX(デジタルトランスフォーメーション)のグランドデザイン(中長期的なゴール)を定め、2023年度に不二サッシ管理本部が中心となってIT戦略構築プロジェクトを立ち上げました。

外部環境として2025年問題に象徴されるように労働人口の減少が深刻化しており、企業にとって人材確保がますます難しくなっています。当社もこの影響を避けることはできず、持続的な成長のためには生産性の抜本的な向上が不可欠です。そこで、デジタル技術の積極的な導入による生産設備の自動化やデータの一元化、部分最適や属人化による業務分断の解消といった業務改革に取り組む必要があります。

現在はプロジェクトの第一段階として、IT環境の整備や基幹システムの刷新、ITガバナンスの強化を全社一丸となって進めており、これによりデジタル技術を活用した業務プロセスの変革や、顧客への新たな価値提供を目指しています。

さらに、当社グループのコアである製造部門では、省人化を目的としたDXに加えてロボット導入も推進しています。これらによる切断機などの製造設備の24時間稼働、また、工作図レス化・AI利用や工場機械データ連携などの多岐にわたる施策に取り組み、さらなる生産性向上や人員不足解消を進めていきます。

私たちはこれからもDXおよび製造自動化を通じて持続的な成長を実現し、社会やお客様から選ばれ続ける企業でありたいと考えています。

— 人権の尊重

不二サッシグループ人権方針

基本方針

不二サッシグループは、「経営理念」に基づき、人権の尊重をサステナブルな社会実現への課題の一つとして、すべての事業活動において、ひとり一人が、「あらゆるステークホルダーの人権が尊重されることが不可欠であること」を認識して行動し、「人権尊重の責任」を果たします。

Web【トップ>企業情報>当社のサステナビリティ】



— 人的資本経営の推進

サーベイ実施後の振り返りと今後の対策

2024年度にエンゲージメントサーベイを導入し、実施した結果、スコアとしてはベンチマークを下回る結果ではありましたが、初年度としては、当然の結果であり、従業員の本音を引き出すことができたのではないかと考えられます。

サーベイ後、グループごとに振り返りを行い、課題を挙げ、2025年度はそれぞれに対する対策を実行していきます。また、エンゲージメントの重要性や目的の周知が十分ではなかったという反省点も踏まえ、勉強会や振り返りを繰り返すことで、会社と従業員がWin-Winとなれる関係を構築してまいります。

一般事業主行動計画の策定

次世代育成支援対策推進法および女性活躍推進法に基づく、一般事業主行動計画を策定しています。

次世代育成の一環として当社の全役職員が働きやすい環境を作り、また、女性従業員の個性と能力を十分に発揮できる環境整備の実施に向けて取り組んでいます。

詳細につきましては下記二次元コードからご覧ください。

Web【トップ>企業情報>当社のサステナビリティ】



人権デューデリジェンス

サプライチェーンにおける人権リスク把握のため、毎年サプライヤーアンケート(SAQ=Self-Assessment Questionnaire:自己評価質問票)において人権デューデリジェンス(DD)の認識・取り組み状況をヒアリングし、その結果に合わせて情報提供などの対応を実施しています。直近の実績としては、前年に比べて人権DDの認知度が向上した結果、取り組む必要性を感じているものの何をすれば良いかわからない企業が多く見られました。

また新たに、不二サッシグループのビジネスにおいて重要な原材料であるボーキサイトの鉱山について、周辺地域のリスクなどの調査にも着手しました(関連情報▶P.42)。

教育・キャリア支援

当社では、社員の育成を目的に多様な教育訓練を実施しており、研修制度や通信教育支援、資格手当、自己申告による人材配置、公正な人事制度などに取り組んでいます。

<1day仕事体験・インターンシップの実施>

社名の認知度向上を目的に、毎年「不二サッシを知る」をテーマとした1day仕事体験を実施しています。この体験では、身近な存在である同社の製品が実はまちの景観づくりに貢献していることを実感でき、グループワークや若手社員との懇談会を通じて、学生の理解促進と社員のエンゲージメント向上にもつながっています。また、社会貢献の一環として毎年インターンシップを実施し、学生にサッシの性能試験や表面処理実験を体験してもらうことで、ものづくりへの理解を深めてもらっています。学生からの改善提案も受け入れながら、双方にとって有益な機会となっており、今後も大学と連携し、将来設計を考える場として継続して取り組んでいきます。



実習風景(インターンシップにて)

<不二サッシS・C株式会社の設立>

当社では、持続可能な施工能力の維持を目的に、若いサッシ施工技能者を雇用・育成する「不二サッシ施工技能者育成プロジェクト」を発足させ、その専担会社として、新たに「不二サッシS・C株式会社」を設立しました。建設業には依然として「3K」(「きつい」「汚い」「危険」)のイメージが根強く残っています。しかし、これを「新しい3K」、すなわち「給与」「休暇」「希望」へと転換することで、多くの若い施工技能者の入職を目指しています。本プロジェクトを通じ、「少子高齢化社会への対応」と「技能の伝承」の両立に取り組んでいきます。

多能工化・マルチタレント化

当社では、女性社員の活躍と多能工化を目指し、実務スキルの向上と業務理解の深化に取り組んでいます。営業・設計・積算ごとに目標を定め、ソフト操作の習得や勉強会などでスキルアップを推進し、建築図面やサッシ構造の理解、積算試験への挑戦を通じて専門性を高め、他部門との連携体制を構築しています。また、課題共有や意見交換の場を設け、主体的に行動する姿勢を育てるとともに、拠点・部署間の連携強化により、組織全体の意識改革にもつなげています。今後もスキル向上と現場理解を深め、組織としての成長を目指します。



勉強会風景

障がい者雇用

社会福祉法人メイプル*1では、設立当初から不二サッシや関係会社の技術指導のもと、建材製品を製造し、現在は障がいのある社員8名がともに働いています。継続的な支援の結果、当社は2024年度も滋賀県の「しが障害者施設応援企業」A級に認定されました。不二サッシ大阪支店も設立時から運営面や製品の製造依頼を通じて支援しており、2024年度には大阪の大型プロジェクトで納品するなど実績を重ねています。また、しらかた不二サッシでは、障がい者の活躍と生産性向上を目的に、「こ

ぶしの家」と業務委託契約を締結しています。

※1:障がい者の就労継続支援を行う事業所として1995年、滋賀県に誕生。



作業風景

国際人材の登用

不二サッシフィリピン社の設計センターでは設計者不足が進む日本市場に対応するため、優秀な人材を採用し、不二サッシグループ向け作図・訂正業務を拡大しています。(▶P.31 不二サッシフィリピン社 参照)

また、2022年度から毎年10名受け入れているカンボジアの技能実習生のうち、7名が特定技能を取得しています。さらに、外国人留学生向け採用合同説明会に参加し、国際人材の採用を積極的に進めています。

VOICE 夢の実現:家族との再会、そして日本での新たな生活

不二サッシ 東京支店 設計部 ポリナ・レスターマーク

日本で7年間一人暮らしをした後、ついに妻と息子を日本に呼び寄せ、一緒に暮らせるようになりました。会社の温かいサポートのおかげで、この夢を実現することができ、本当にうれしく思っています。

しかし、新しい言葉や文化に慣れるのは決して簡単なことではありませんでした。息子は6歳で日本に来ましたが、フィリピンで重度の難聴と診断されており、左耳には補聴器を装着し、右耳は聞こえません。それでも私は、日本の優れた医療制度があれば、息子の未来は明るいと感じていました。そのような困難がある中でも、息子はひらがな、カタカナ、そして漢字の学習にも一生懸命取り組み、熱心に日本語を覚え始めました。現在では小学3年生になり、友達や先生、大人たちとのコミュニケーションも増え、新しい環境の中で順調に成長しています。病院や学校とのやりとりを助けてくれた日本語教育のサポートは、特に大きな支えとなりました。また、職場の皆さん、上司、同僚、友人たちの励ましや協力にも、心から感謝しています。

今では、家族との生活もすっかり日常となり、楽しい日々を過ごしています。家族とともに暮らせることで、私の人生はより豊かで意義深いものになりました。今や私たちの故郷と呼べるこの国で、家族とともに暮らし、働き、成長できることに、日々感謝しています。



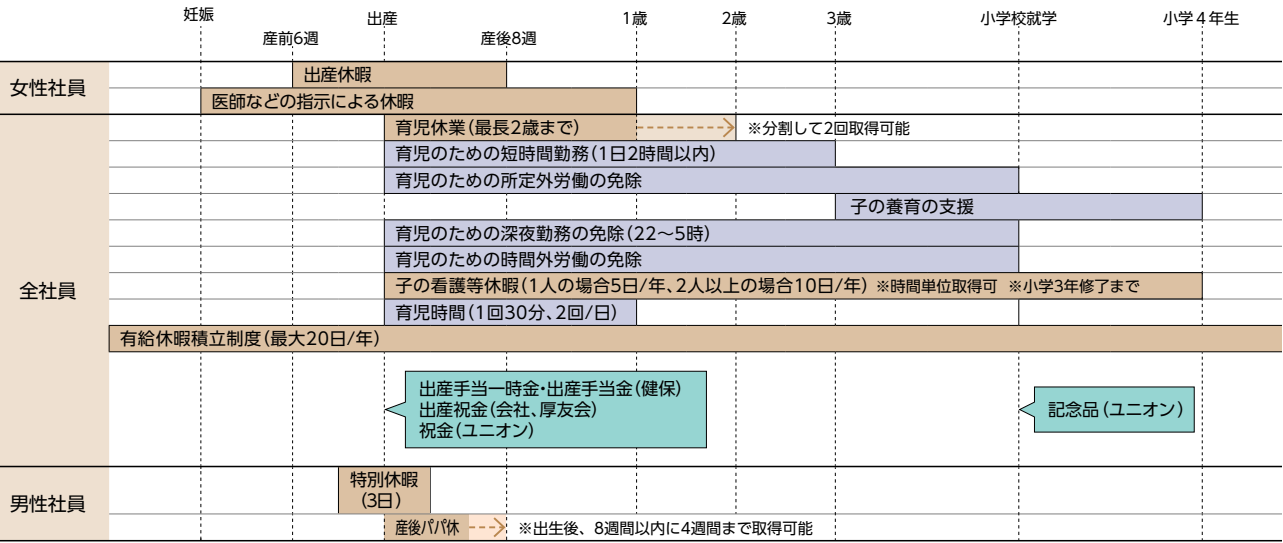
ポリナ・レスターマークさん一家

育児・介護支援・再雇用の取り組み

少子高齢化による労働力不足に対応するため、定年後も働ける再雇用制度を導入し、シニア世代の経験を活かせる環境を整えています。また、育児・介護休業を取得しやすくするため、妊娠・出産・一定年齢到達時に制度説明

や意向確認を行い、時差通勤・短時間勤務・テレワークなど柔軟な働き方を支援しています。育児では、小学3年生修了まで短時間勤務を利用でき、従業員が安心して働ける環境を整備しています。

育児に関する人事制度



VOICE 育児休業を取得して

1 不二サッシ 営業本部・海外営業部 長尾 創

長男のときは出産後1ヶ月、次男のときは出産後1ヶ月に加えて、後にさらに2ヶ月間の育児休業を取得しました。自分も主体的に育児に関わりたいという思いがあり、特に新生児期の1ヶ月は親として成長する大切な期間だと感じたからです。

新生児の育児は体力・気力ともに大きな負担があり、産後のダメージを負った女性一人では非常に大変です。次男誕生時は長男がまだ保育園に通っておらず、育児休業を取れたことは大きな支えとなりました。2歳児と0歳児では生活リズムも異なり、夫婦でそれぞれの子どもの担当して協力できたのは貴重な経験でした。

最も親の存在が必要な時期に子どもたちとしっかり向き合え、かけがえのない時間を過ごせました。子どもたちは日々成長していきますが、私たち親自身も、育児を通して大きく成長させられると感じました。この



ような貴重な経験は人生の中でそう何度もあることではないと思いますので、ぜひ多くの方に育児休業の取得をおすすめしたいです。

2 不二ライトメタル 西資材生産一部 松永 直士

二人目の子どもの出産から1年ほど経過したころ、妻から職場復帰をしたいので、その間私が育児休業を取得できないか相談を受けました。

若干の不安はありましたが職場の皆さんや上司の協力により、3ヶ月の育児休業を取得しました。期間中は妻のサポートをしつつ不慣れながらも家事諸々を行い、子どもとの時間を過ごす中で、より一層家族に対する愛情が増しました。子どもだけでなく自分自身も成長することができた、大きなメリットがあった3ヶ月でした。今回育児休業を取得するにあたって協力していただいた皆さんに感謝するとともに、今後は仕事と育児の両立を頑張っていきます。



新オフィスへの移転による人的資本シナジー創出

当社は2025年夏より川崎市にクロッシングオフィスを建設し、グループ企業数社とともに移転します(不二サッシリニューアル溝の口工場跡地)。本計画では人的資本のシナジー創出のため、各事業部門のスペシャリストを集約させ、動線・内装レイアウト設計によりコミュニケーションとイノベーションを促進します。販売連携強化のた

労働安全衛生

労働安全衛生に対する基本的な考え方

「安全衛生はすべてに優先する。安全衛生なくして生産性、品質の向上なし」という、トップの決意のもと、決めたことは守り、守ってもらい、不安全状態、不安全行動を完全に排除する職場づくりを安全衛生管理の基本方針としています。

従業員の健康増進

不二サッシは不二サッシ健康保険組合と協同で、毎年実施する特定検診(定期健康診断)・特定保健指導などにより、従業員の健康状況を把握し、疾病の早期発見と予防のための適切な管理を行っています。

日本人の2人に1人が「がん」になると言われており、その「がん対策」として早期発見、早期治療のため、希望者を対象に「人間ドック」「乳がん検診」「子宮がん検診」「前立腺がん検診(PSA)」の受診補助を実施しています。また、健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や特定保健指導などのフォローも行っています。

工場の熱中症対策

近年、日本の熱中症による搬送者数は増加傾向にあり、当社グループとしても特に生産拠点における対策に取り組んできましたが、労働安全衛生規則改正による熱中症対策の義務化(2025年6月1日~)を受けて、対策の強化を進めています。第一弾として、①事業場における緊急連絡網および緊急搬送先の作成、②熱中症の恐れがある労働者を把握した場合の対応手順の作成、③ ①②の関係者への周知、を実施中です。また、各拠点への熱中症対策のアンケートを実施し、結果を水平展開しています。

め、オフィスには顧客の声を収集するショールームを併設、またオフィスの各方位に異なる当社製品を採用しオフィス自体もショールーム化します。

さらに環境面においても、当社新製品である低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」の使用、屋上の太陽光発電パネル設置、当社製品の断熱性をベースとした省エネ設計といった特長を有します。

試験場の暑さ対策！
屋内用遮熱シート「はるクール」を導入

不二サッシ千葉工場の試験場において、熱中症対策として文化シャッター(株)製の「はるクール」を導入しました。試験場はこれまで、夏場は30℃を超える箇所もあり、非常に過酷な環境となっていました。アルミ箔を使用した遮熱シート「はるクール」を屋根の内側に取り付けすることで、太陽の輻射熱を受けた屋根からの放射熱を反射し、建物内の温度上昇を抑えることができます。熱中症予防と作業効率の向上に役立っただけでなく、空調の消費電力量の削減にも寄与しています。

従業員がこれまでより健康で働きやすい職場に改善されることを期待しています。



動風圧試験場 (はるクール施工前)



動風圧試験場 (はるクール施工後)

Communication

— ステークホルダーとのコミュニケーション

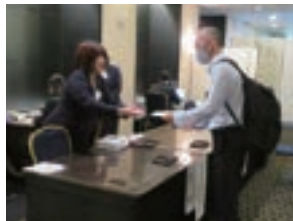
定時株主総会

2025年6月27日、川崎日航ホテルで不二サッシ(株)第44期定時株主総会を実施しました。

当日は22名の株主様にご来場いただき、各議案とも賛成多数で承認可決いたしました。

●本総会の決議事項

1. 剰余金の配当の件:当社普通株式1株につき25円
2. 取締役8名選任の件
3. 監査役2名選任の件
4. 監査役補欠者2名選任の件
5. 当社取締役等に対する株式報酬等の額および内容決定の件



不二サッシ工事共済会工事安全大会



開催風景（東京支部）

2024年に58回目を迎える不二サッシ工事共済会の工事安全大会を大阪支部(6月7日)を皮切りに、最終の中四国支部(6月29日)まで、全国11箇所で開催しました。



江崎社長挨拶

2023年度は、休業災害0件、不休災害5件、熱中症0件、火災0件の発生があり、休業災害ゼロを実現しましたが、不休災害により完全な災害ゼロにはなりません。発生した不休災害はヒューマンエラーによるものが多く、2024年度の厚労省の「危険に気付くあなたの目」そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」のスローガンのもと、これ以上災害が発生しないよう、会員一人ひとりが安全に対する意識を高め、作業手順書の遵守・確認および現地KYボードを活用して安全作業をすることを誓いました。

優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)受賞

令和6年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰及び青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰」の顕彰式典が令和6年10月18日に開催されました。本年度は「優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)」に当社からの推薦で、不二サッシ工事共済会大阪支部、(有)ヤオサッシ工業の福田浩さんが受賞されました。

国土交通省では、現場の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技術・技能を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている建設技能者の方を対象として、優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)を実施しています。

建設マスターの顕彰は平成4年度より実施され、33回目となる令和6年度は452名が顕彰され、建設マスターは計12,864名となります。



青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰(建設ジュニアマスター)受賞

平成27年度より、次世代の建設現場の担い手を確保・育成すること、建設マスターに達するまでの技術・技能の向上を図ることを目的として、新たに「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」が設けられました。令和2年度より「青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰」と呼称を変更して継続され、令和6年度は、当社からの推薦で、不二サッシ工事共済会東京支部より(有)伊東工業所の伊東聖政さんが受賞されました。



不二サッシ建材特約店会の全国総会開催

「2024年度不二サッシ建材特約店会全国総会」を、建材特約店と販売会社・関係会社を含め総勢106名で開催しました。総会は江崎社長の挨拶で始まり、愛岐サッシ工業(株)伊藤社長に特約店代表としてご挨拶をいただきました。続いて中低層・フロント事業部の方針と重点施策、インプラードⅡの商品説明と今後の展開、住宅省エネ2024キャンペーンについて、それぞれ説明を行いました。

また、「2023年度建材作品コンテスト」の表彰式も執り行われ、最優秀賞の(株)加藤商店をはじめ入賞した14作品に対し江崎社長より表彰状を贈呈しました。

2024年日本産業広告賞 新聞部門 シリーズ広告賞 第1席受賞

今回のシリーズでは、当社の「サステナビリティビジョン2050」から4つテーマを抽出し、それぞれを象徴するピクトグラムを画面中央に配置してメッセージ性を加えました。背景では美しくかつ見る者の想像力を喚起するデザインにこだわり、そこにキャッチフレーズを合わせることによってメッセージのイメージをひろげています。本広告で表現した「不二サッシが考える」未来の実現に向けて今後も歩んでいきます。

また、本広告は第46回「2025日本BtoB広告賞」日刊工業新聞の部「銀賞」も受賞いたしました。



サプライヤー支援によるサステナビリティ調達の推進

サプライチェーンマネジメントの強化は、サプライチェーンGHG排出量Scope3削減(参考▶P.38)や人権への取り組みなどのために不可欠です。毎年実施しているサプライヤーアンケート(参考▶P.32)に関する課題として、アンケートだけでは思うように改善につながらないことがあります。そこで対策の一つとして、定量的な効果検

証が比較的容易なScope3に着目し、当社がこれまでSBT認定取得やTCFD開示で培った経験を活かしたサプライヤー支援を実施する計画を進めています。サプライヤーは排出量(Scope1・2)を算定できるようになり、当社はScope3の一次データ化を進めることができる、Win-Winの関係を目指します。

うんこ啓発ドリルを全国の小学校へ寄贈

次世代を担う子どもたちへ向け、生活に身近である窓の役割を楽しく知ってもらうために、不二サッシと(株)文響社がコラボレーションし、小学生向けの啓発冊子『うんこドリル くらしと窓』を制作しました。うんこドリルとは、シリーズ累計1,100万部を突破した全国の小学生に大人気のドリルです。冊子では、「うんこ先生」から窓に関する知識について、ユーモアあふれるクイズ形式で楽しみながら学習できます。各地域の小学校で配布されるほか、不二サッシのホームページからも閲覧することができます。



うんこドリル くらしと窓



小学生の野球チームにも配布



カーボンニュートラルセミナー登壇

当社は、2025年2月20日に開催された「カーボンニュートラルセミナー 高まる環境配慮要請への対応」(主催:関東経済産業局、独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部)に登壇し、当社のサステナビリティ経営の取り組みについて講演を行いました。本セミナーは、中堅・中小企業を含めたサプライチェーン全体でのGXの取り組みについて紹介するもので、当社は「主力アルミニウム製品からひろげるサステナビリティ経営」という題にて講演を実施しました。当社のカーボンニュートラルに向けた計画、主原料であるアルミニウムの低炭素化、今後の課題について説明しました。このような講演の登壇企業に選ばれたことは、当社のサステナビリティへの取り組みが社会に認められたことの一つの表れと考えており、今後に向けて大いに励みとなりました。

Environment

E | 環境

基本方針

2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
くらしを支える生態系の保全と回復を目指します
資源循環の促進を追求します



ハイライト



—— 脱炭素社会の実現への取り組み

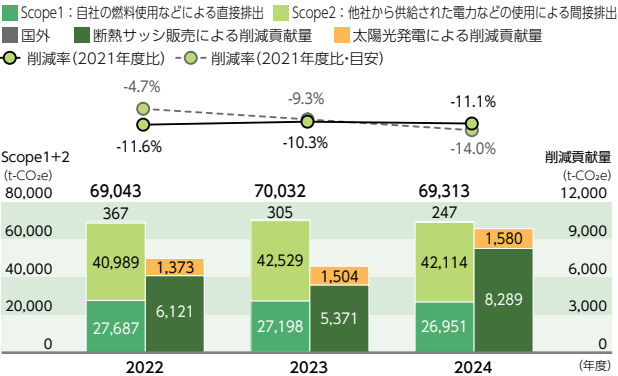
「不二サッシグループ サステナビリティビジョン2050」で表明している通り、2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指してCO₂排出量削減に取り組んでいます(▶P.22)。この具体的な削減目標として、不二サッシグループの自社活動由来(Scope1+2)およびサプライチェーン排出量(Scope3)に関するSBT短期目標およびネットゼロ目標を設定し(2024年認定取得▶P.39)、最優先課題の一つとしています。

削減施策として、Scope1・2に関しては、工程改善・車両や設備などの導入による省エネと、燃料転換および再生可

能エネルギーの導入拡大を推進しています。再生可能エネルギーとして従来グループ全体でオンサイト太陽光発電所の導入を進めており、2024年度には千葉事業所に増設しました(▶P.40)。またScope3に関しては、アルミリサイクル率のさらなる向上、取引先との排出量削減に向けたエンゲージメントや、輸送の効率化およびモーダルシフトなどに取り組んでいます。このうち建材についてはアルミリサイクル率100%製品の量産化に着手しており、それらのCO₂排出量の第三者認証取得など建築物LCAへの対応も進めています(▶P.20,41)。

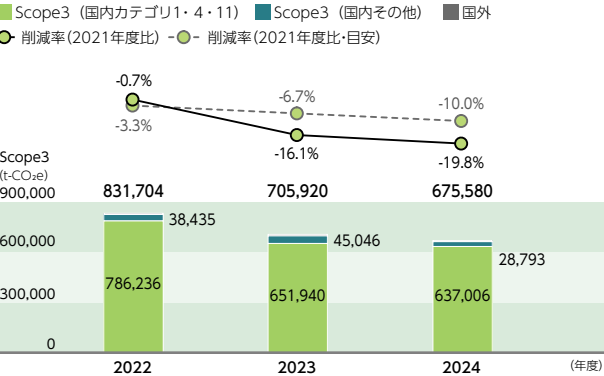
2024年度の事業活動における環境負荷

CO₂排出量(Scope1+2)およびグループ削減貢献量



※断熱サッシ販売による削減貢献量:単板硝子に対して当該商品を使用した場合の効果(NEDO「断熱部材のLCCO₂評価・算定法の標準化調査」成果報告書依拠)
※太陽光発電による削減貢献量:電力の調整後CO₂排出係数、太陽光発電システムのCO₂排出係数(47g/kWhと仮定)を用いて算出

CO₂排出量(Scope3)



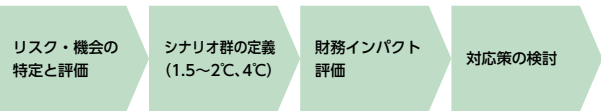
—— ガバナンス、リスク管理

不二サッシグループとして、気候変動、生物多様性や資源循環に関する課題・リスクはサステナビリティ委員会を中心に

—— 戦略

分析のプロセス

TCFD提言で示されたリスク・機会を参考に、気候変動問題が当社グループの事業に及ぼす影響を以下のステップで検討しました。



リスク

リスク	分類	ドライバー	リスク内容	時間軸	影響度	重要度	対応策
移行リスク	法規制・政策	炭素税などによる負担	自社排出量(Scope1+2)に対する排出量取引などのコスト発生	中期	大	大	【Scope1】・省エネ設備などの導入・設備の電化や水素化 【Scope2】・再生可能エネルギーの導入
	法規制・政策	再生可能エネルギー価格の高騰	エネルギー費用抑制のための設備省エネ化や燃料転換コスト発生	中期	大	大	・生産の集約化・効率化 ・排熱の有効活用およびそれを可能にする生産・設備の最適化
	技術・市場	低炭素製品への投資	脱炭素関連製品*1の需要増加に対応するための開発・設備投資額*2増加	中～長期	大	中	・脱炭素をテーマとする研究開発の強化 ・新製品への投資に関するグリーンファイナンス活用 ・脱炭素市場動向の調査と製品への反映
物理リスク	急性	自然災害の激甚化	【売上被害】 自然災害*3に伴う営業停止による売上減少 【直接被害】 事業所の浸水などにより被災した施設などの復旧費の発生	短～長期	大	中	【短中期】 ・排水設備の増設 【長期】 ・工場・設備の防災強化 ・リスク分散のための生産協力体制の構築 ・重要な設備や在庫への防水堤の設置、床面の上昇

機会

機会	分類	ドライバー	機会内容	時間軸	影響度	重要度	対応策
機会	資源効率	エネルギーの効率的利用	燃料使用量削減による運用コストの削減	中期	中	中	【Scope1】 ・ヒートポンプをはじめとする省エネ設備などの導入 ・廃棄物・排熱利用の促進 【Scope2】 ・再生可能エネルギーへの切り替え拡大(PPA、太陽光発電、グリーン電力証書など)
	エネルギー源	再生可能エネルギー発電設備の導入	太陽光発電や蓄電技術の導入・拡大による、電力や燃料購入コストの削減	中期	小	小	・社内炭素価格の導入による省エネ投資の促進 ・設備導入におけるグリーンファイナンス活用
	製品およびサービス	低炭素製品の選好	脱炭素関連製品*1の需要増加に伴う売上増加	短～長期	大	中	・脱炭素をテーマとする研究開発の強化と市場動向の分析 ・新製品への投資額の増加
	製品およびサービス	防災需要の高まり	防災性能の高い製品需要の増加に伴う売上増加	短～長期	中	中	・防災をテーマとする研究開発の強化と市場動向の分析 ・新製品への投資額の増加

*1:省エネ・高断熱・ZEB対応、リサイクル、LCAなどの認証付と、樹脂または木製組み合わせなど *2:スクラップ専用炉、電気炉も含む *3:台風、高潮や洪水による浸水、自然災害によるサプライチェーン断絶など
・使用シナリオ:【移行リスク】 IEA WEO2023 NZE2050
【物理リスク】 ・IPCC RCP8.5 ・IPCC AR6 SSP5-8.5
・時間軸 短期:1年以内、中期:～2030年、長期:～2050年
・影響度 大:影響額3億円以上、中:1億円以上～3億円未満、小:1億円未満
・重要度:時間軸と影響度を勘案して3段階で総合的に判断

—— 指標と目標

不二サッシグループは毎年、気候関連問題が経営に及ぼす影響を評価・管理するため、GHGプロトコルの基準に基づき温室効果ガス(GHG)排出量を算定しています。

GHG排出量の削減目標は、2021年度比で2030年度までにScope1+2を42%削減、Scope3はカテゴリ1・4・11を対象に30%削減を目指しています。長期目標として2050年度までにネットゼロを目指します。

に検討し、取締役会へ四半期に一度の頻度で報告し、審議、諮問や指示を受けています(詳細は▶P.22 掲載)。

リスク・機会の財務インパクト評価と対応策の選定

分析結果(下表)において影響度「大」としたリスクおよび機会への対応策に関して、まず、省エネ設備および再生可能エネルギーの導入や脱炭素関連製品の研究開発は実施中であり、今後さらなる加速を計画しています。

また、自然災害の激甚化への対応策としては、各生産拠点に実施または計画中の取り組みの確認を行っており、今後の計画に反映していく予定です。

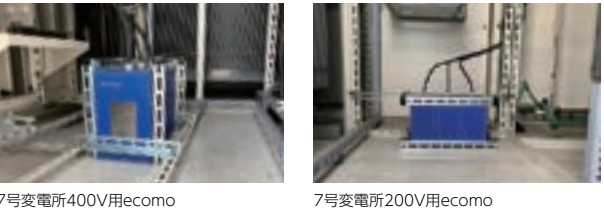
環境負荷低減に向けた取り組み状況

節電ユニット「ecomio」導入

不二ライトメタル東技術グループでは、環境負荷低減と、電力量合理化を目的として、節電ユニット「ecomio」を導入しました。

2024年12月には、主に鋳造工場が電力を使用している7号変電所に取り付け、効果確認を実施しています。

効果については、過去5年平均対比で、2025年1月度7.7%、2月度4.6%、3月度11.5%の削減効果が出ており、順調に電力使用量の削減ができています。



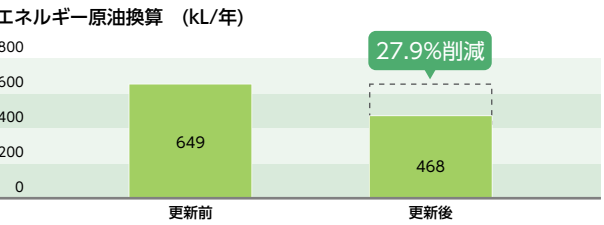
コンプレッサー更新による省エネ

不二ライトメタル西技術グループでは、2024年度に老朽化したコンプレッサー4台を省エネ性能に優れた新型設備へと更新しました。

工場のエア供給量に合わせた容量の最適化とインバータ仕様への変更により電力消費を抑え、水冷式から空冷式への切り替えで冷却水ポンプを不要とし、さらなる省エネを実現しました。

また、補助金を活用することで導入コストも低減しました。これにより、原油換算で年間27.9%の省エネ効果を達成しました。今後は、各設備へのエア供給の効率化を目指し、工場全体のさらなる省エネ化を進めてまいります。

1号機:(75kWインバータ出力仕様) 2号機:(75kW固定出力仕様)	3号機:(100kW固定出力仕様) 4号機:(100kWインバータ出力仕様)
---	---



オンサイトPPAを活用した太陽光発電の導入

千葉事業所では、事業継続のためのリスク削減および、再生可能エネルギーの活用による脱炭素化経営を目指し、第1工場の耐震補強工事および屋根改修工事を実施し、屋根上への太陽光パネル設置を行いました。

導入による効果見込みは以下の通りです。



太陽光パネル設置状況の航空写真

- ・電力使用量削減: 2,189,452 (kWh/年) …千葉事業所全体の約5%削減
- ・CO₂排出量削減: 854 (t/年) …千葉事業所全体の約3%削減

再生可能エネルギー電力契約の締結

不二ライトメタル西技術グループでは、2025年度より、本社工場の購入電力の一部に、FIT非化石証書、または非FIT非化石証書を活用した再エネ価値を付帯する再生可能エネルギー電力を小売電気事業者と締結しました。この契約により、本社工場で使用する電力の一部に、実質再生可能エネルギー電力が供給されます。この実質再生可能エネルギー電力は、SBTやGXリーグに対応しており、不二サッシグループで掲げたSBTネットゼロ目標の達成、ひいては脱炭素社会の実現に大きく貢献します。

カーボンクレジット調達

当社の温室効果ガス (GHG) 排出量削減目標はSBT認定取得済みであり、GXリーグにおいても設定・公開しています。目標達成に向けて省エネ・設備省エネ・創エネに取り組んでいますが、これらは主に中長期的な設備投資によるものであり、サステナビリティ委員会の具体策を実行するサステナビリティ推進部会が目標未達成リスク(可能性)を管理しています。そこで、当社のリスクヘッジおよび社会全体の脱炭素化促進への貢献として、カーボンクレジットの調達を決定しました。2025年度第1四半期より、市場動向を確認しつつ段階的に進めています。

資源循環および生物多様性に関する取り組み状況

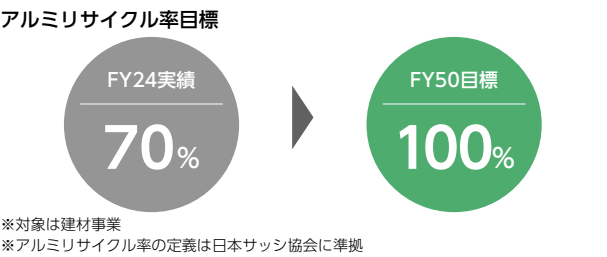
当社グループ「サステナビリティビジョン2050」では、脱炭素と並び、生物多様性および資源循環も方針の柱としています。

資源循環については、各生産拠点の環境に関する取り組みの一つとして、あらゆる廃棄物の3Rを推進しています。さらに、アルミ原材料としてのリサイクル材は新地金比でCO₂排出量 (Scope3) を97%も削減できることから、サーキュラーエコノミーの推進を事業の要と認識しています。

生物多様性については、従来は地域の取り組みへの参画などに加え、アルミ原材料に関して一次サプライヤーを通じた生産地への配慮を行ってききました。今後はこれに加えて、生物多様性と事業の相互影響の開示にも取り組んでいきます。

再生アルミとグリーンアルミの調達

不二ライトメタルでは、原材料であるアルミ新地金に替えてリサイクル材(スクラップ)の調達を推進し、使用比率を年々高めています。2024年度には70%を超え、2025年度第3四半期からは当社千葉工場で生産するサッシのリサイクル100%への切り替えを始めます。



アルミリサイクル材の調達で最も配慮する点は「品質(特に成分値)」です。新規開拓先においては、必ず集荷された現物の品質、その会社の品質管理体制などをチェックし、トライアル納入することを義務付けています。また、大手建設会社との「サッシ to サッシ」の協同事業化検討も進めています。

このように多様な調達方法を検討しリサイクル調達量の確保に努めていますが、一方で、社会的なリサイクル材の需要の高まりも起きています。

そこで、低炭素アルミの安定調達のため、当社および不二ライトメタルは、丸紅(株)・リオテント社と同社ニュージランド・アルミニウム製錬所にて再生可能エネルギーを使用して生産される低炭素アルミブランドRenewAl™のドレット調達契約を締結しました。

これらの再生低炭素アルミは当社製品「Reサッシ R100」、「Reサッシ グリーン」として製造販売し、社会の持続可能性向上に貢献していきます(関連 ▶ P.20)。

廃棄物処理薬剤によるCO₂排出量削減貢献

環境事業部では、都市ごみ焼却施設より発生する飛灰の安定固化装置や早期硬化セメントを含む処理薬剤などの販売により、資源の有効利用と環境への負荷低減に寄与しています。

ごみ焼却施設では廃棄物の焼却により焼却残渣と飛灰が発生します。このうち飛灰は一般的に、成分中の有害な重金属(鉛、水銀、クロムなど)を薬剤処理により無害化(安定化・不溶化)した後、最終的に埋立処分しています。当社の重金属固定剤による処理は、日本の年間の都市ごみ量のうち約17%(当社計算)に相当します。

また、建設工事現場における更地の土埃・粉塵の対策として、ブルーシートなどによる被覆があります。当社はバイオマスを主原料とする生分解性の粉塵防止剤を販売しており、これによってブルーシートに換算して年間約20~50t(当社計算)の使用を抑制しています。

梱包および物流の改善

不二サッシグループ全体で、廃棄物削減として梱包の改善に取り組んでいます。

例として、グループ間で輸送する枠・障子を段ボール梱包からストレッチフィルム梱包仕様に変更したことにより、廃棄物削減に加えて関連作業も削減しています。

他社との協業においても、段ボールなどの梱包材の仕分け改善による取引業者での再利用促進や、客先への納品時に当社側で梱包材を回収し再利用するなどの活動も行っています。

また、こうした梱包改善と併せて、不二倉業では物流改善(車体軽量化により積載量を高めたSDGs車両の導入、自社トラック・フォークリフトの燃費管理、鉄道・船舶を利用したモーダルシフトの推進など)を通じて、CO₂排出量削減にもつなげています。

TNFD

—— ガバナンス、リスク管理

自然資本関連のガバナンス、リスクの特定プロセスは、TCFD(詳細は▶ P.39 掲載)と同期しています。

—— 戦略

分析のプロセス

LEAPアプローチを活用し、不二サッシグループの工場拠点と、サプライチェーン上流のボーサイト(アルミニウムの原料)を採掘する鉱山における、自然との依存影響関係について右記のフローで検討しました。2025年4月現在、LEフェーズま

で分析を進めました。今後はLEAPアプローチにおける分析結果を踏まえ、さらなる具体的活動を検討・実施していきます。



事業拠点での依存・影響関係、要注意地域の把握

・直接操業

金属製品の製造・廃棄工程での有害物質排出や騒音の影響、水資源への依存が高いことが示唆されました。なお当社グループは、各該当項目について影響を最小限に抑える対応を行い、法規制も遵守しています。

また、要注意地域として熊本県の拠点や他数拠点が鳥獣保護区やラムサール条約湿地などの保護地域に該当していましたが、水資源や生態系に影響のある拠点は見られませんでした。

・上流サプライチェーン

鉱山での採掘工程で水資源への依存・影響がともに高く、排ガスや有害物質排出の環境影響の高さが示唆されました。

また、要注意地域として主要な複数の鉱山には水資源、保護地域、先住民族共存地域が所在していました。一方でリスク程度の低い地域も見られました。

事前の想定から大きく逸脱することなく、調達段階で数多くの自然資本への高い関係性を確認しました。

ENCORE分析における依存・影響項目

対象 サプライ チェーン	対象 プロセス	自然への影響												… Very High (とても重要) … High (重要) … Medium (普通) … Low (関連性低い) … Very Low (関連性ほぼなし) … No Date (データ不足) / ---Not Applicable (不検出、該当なし)
		インプット						アウトプット						
		陸域の 利用面積	淡水域の 利用面積	海底の 利用面積	水の 利用量	その他の生物 資源利用 (魚、木材など)	非生物 資源利用	GHG 排出	非GHG 大気汚染 物質	土壌・ 水質汚染を 生じる 有害物質の排出	土壌・ 水質汚染を 生じる 未燃焼の排出	固形 廃棄物	騒音、光 (騒音、光 など)	
直接操業 上流	製造 調達													

対象 サプライ チェーン	対象 プロセス	自然への依存																			
		供給サービス						調節・維持サービス													
		生物資源 供給	遺伝子 材料	水供給	その他の供給 サービス 動物性 エネルギー	地球規模 の 気候調節	降雨 パターン 調節	地域的な 気候調節	空気の 浄化	土壌質 調節	土壌と 堆積物の 保持	固形 廃棄物の 浄化	水質浄化	水流調整	洪水制御	暴風雨 軽減	騒音 軽減	受粉	生物的 防除	若齢 個体群と 成育地の 維持	大気・ 生態系に よる希釈
直接操業 上流	製造 調達																				

※同一事業内で複数の経済活動が考えられる場合には結果の大きいものを採択

—— 指標と目標

自然関連課題の管理指標として現段階で把握している開示指標を以下にお示しします。

目標設定においては、「サステナビリティビジョン2050」

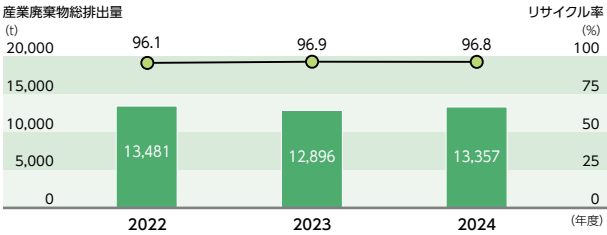
に則り、気候変動課題と生物多様性のトレードオフや相乗効果も考慮しながら現在検討を進めているところです。

自然変化要因	総面積	土壌に放出された汚染物質質量	合計排水量	排水に含まれる汚染物質濃度	総廃棄物量	有害廃棄物量	非有害廃棄物量	埋立処理量	リサイクル量	合計取水量	高リスクコモディティの合計調達量
指標	不動産明細土地面積	PRTR法対象化学物質	水域への放出	PRTR法対象化学物質	産業廃棄物・一般廃棄物・有価物	特別管理産業廃棄物	総量一有害量	総量一リサイクル量	産業廃棄物、一般廃棄物、有価物	上水・工業・地下水	アルミニウム新地金・ピレット
単位	km ²	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
合計	641	0.0	2,251,642	5.7	13,209	24	13,184	603	12,605	2,251,642	29,981

2024年度の事業活動におけるデータ集

産業廃棄物排出量・リサイクル率(生産拠点12サイト)

■ 産業廃棄物総排出量 ● リサイクル率



PRTR対象化学物質の届出(合計)

化学物質 (t)	ニッケルおよびその化合物	ホウ素およびその化合物	マンガンおよびその化合物	フッ素およびその水溶性塩	キシレン	メチレンビス(4,1-フェニル)-ジイソシアネート
取扱量	12.37	4.75	4.30	3.00	1.88	4.24
排出量	大気	-	-	0.06	1.69	-
	水域	1.76	3.37	-	-	-

生産拠点マテリアルフロー

* アルミ投入量(鑄造)では外部購入ピレットを除外、アルミ生産量(押出)では含む

IN PUT	エネルギー							水資源		原材料
	電力(GWh)	都市ガス(km ³)	LPG(t)	軽油(kL)	ガソリン(kL)	灯油(kL)	重油(kL)	上水・工業水(kt)	地下水(kt)	アルミ投入量(kt)
	94.0	6,514	1,818	120	119	57	76	2,056	130.6	36,582

OUT PUT	大気への放出	水域への放出	廃棄物		製品
	CO ₂ (t)	水(kt)	産業廃棄物(t)	一般廃棄物(t)	アルミ生産量(kt)
	61,788	2,187	13,357	95	37,181

生産拠点: 不二サッシ(千葉)、不二ライトメタル、関西不二サッシ、日海不二サッシ、北誠産業、しらたか不二サッシ、北海道不二サッシ、山口不二サッシ、不二サッシ九州、大牟田アルミ建材、沖縄不二サッシ、不二サッシフィリピン社

第三者意見 (概要版)

※ウェブ掲載詳細版の書面・動画(日・英)・本意見に関する注意点については、本欄に掲載のQRコードよりご参照下さい。

戸村 智恵 様

日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長

元・国連の専門官で、国連戦略立案専門官リーダー、内部監査業務専門官、サステナビリティ・ESG関連の普及啓発などを担当。国連退官後、岡山大学大学院非常勤講師、経営行動科学学会理事、上場IT企業アドバイザー、コーポレート・ガバナンス・アワード大賞選考委員長などを歴任。



同社が若手～中堅社員をベースとした「F30プロジェクト」において、株主価値の向上・企業価値向上・役職員の幸福度向上において、全社一体となつての取り組みがなされています。

経営トップ主導で多様で優秀な現場の人材力を活かし、大小800を超える経営課題を抽出して中長期計画に反映させるなど、組織全体で自主的・自律的な経営変革への取り組みが見受けられます。

また、2024年3月に策定・発表した「サステナビリティビジョン2050」に沿って、建築物のライフサイクルカーボン削減対策や、製造する側・利用する側の社会的責任を視野に入れ、今後、大量に廃棄が生じると予測されるソーラー発電パネルの循環型リサイクルスキームの推進や、同社のTCFD対応・LEAPアプローチによるTNFD対応・ESG推進などにおいて、単に「儲ける力」が収益性だけでなく、公益性ある取り組みになるよう努めている様子が見てとれます。

さらに、同社の製品や企業メッセージが社会に好感をもって受け入れられている様子は、「プロダクトオブザイヤー2024」

準グランプリ受賞をはじめとする、様々な活動の表彰においても顕著に見受けられます。

全体的に見て、同社の着実で堅実な経営変革・企業成長のもと、ものづくりを支える人と技術を大切にする同社の経営姿勢が、「ビジネスと人権」・DEI・ディーセントワークなどの視野においても貫かれているように見られます。

なお、広範な「ビジネスと人権」に関する取り組みにおいては、時として、漸進的な対応が求められますが、同社においても、改めるべき点は改め、現状に満足することなく、企業成長・株主価値向上・役職員の幸福度向上に向けて、さらなるステップアップが期待されます。

第三者意見
ウェブ掲載詳細版

生成AIアバター
「AI-Tommy」による動画解説

(日本語版)

(英語版)



<https://www.fujisash.co.jp/>

不二サッシ株式会社

本 社 〒212-0058
神奈川県川崎市幸区鹿島田 1 丁目 1 番 2 号
TEL: 044-520-0034

東 京 本 部 〒141-0031
東京都品川区西五反田 4 丁目 32 番 1 号
TEL: 03-6867-0770

内容に関するお問い合わせ先

サステナビリティ推進室

TEL: 03-6867-0755 E-mail: sustainability@fujisash.net

サステナビリティレポート2025に関するアンケート▶

